

# 目 次

はじめに .....	2
<b>I 博物館概要</b>	
○設置目的 .....	3
○基本的性格と方針 .....	3
○沿革 .....	4
○施設・設備 .....	6
<b>II 平成6年度 組織・運営</b>	
○組織 .....	8
○事業計画 .....	9
<b>III 平成5年度のあゆみ</b>	
○職員 .....	11
○日誌抄 .....	11
○実施事業の概要 .....	13
○刀剣展示・スタディーコーナーの概要	
1 刀剣コーナー .....	14
2 スタディーコーナー .....	14
○特別展	
1 「土と炎の芸術」	
～ふるさとに息づく技と心～ .....	15
2 「失われゆく植物」 .....	16
○資料紹介展	
川と自然 .....	17
○特別陳列	
学校宝物展 .....	18
○調査研究・資料収集活動	
自然部門 .....	19
人文部門 .....	22
○教育普及活動 .....	23
○マイ・ミュージアム棟建設事業 .....	26
○図書資料寄贈者芳名一覧 .....	27
○利用状況 .....	31
○博物館関係団体 .....	32
<b>IV 利用案内</b>	

## はじめに

平成6年5月には、開館19年目を迎える当館は現在、正面玄関への階段右手にあった鹿児島県から贈られた蘇鉄と桜島の溶岩を「百寿の塔」の下に移し、その跡地一帯に新しい博物館施設「マイ・ミュージアム」棟の建設工事が進捗しています。この建物は、数年来の構想が平成5年度予算に計上され、しょう洒な4階建てが当館の表玄関となり、県民のコレクションの展示室に加えて、双方向性のオリジナルソフトによるハイビジョンの放映、マルチメディアでの情報検索等最先端の情報技術を駆使するユニークな施設として平成6年度末の完成を予定しています。

平成5年度は、この新施設の実施設設計から起工式、ハイビジョンソフト「ハイパー風土記岐阜・美濃路」の資料収集と試作ソフトの制作、県民コレクションの展示希望者募集開始などを行いました。6年度は、建物工事の本格化と合わせて内部施設、設備の仕様の決定と発注、映像ソフト「美濃路」の完成と続編「中山道」の資料収集、県民コレクション展示計画の作成等、新施設が夢と魅力にあふれた博物館として機能できるよう、皆様の御理解を得て万全を期したいと願っています。

従来からの博物館運営におきましては、5年度は特別展「土と炎の芸術」「失われゆく植物」を開催、特別陳列「学校宝物展」は、3回シリーズの最終回を実施し、それぞれ好評をいただきました。常設展も一部新資料等による展示替えを行いました。恐竜化石の特設コーナー展示、木曾川河川敷で5年9月末に採取した大型ほ乳類足跡化石の公開も行い話題を呼びました。6年度も特別展は春秋の2回開催し、夏と冬には新しい構想による資料紹介展と特別陳列を企画し、特設コーナーの充実も図るよう努めます。日曜講座、土曜教室、自然観察会などの教育普及事業も盛況であり、今後も一層満足度の高いものとするよう改善を重ねる所存です。

ここに、平成5年度事業の記録と平成6年度の事業計画の概要を記載した館報第17号を刊行しました。御高覧いただき、生涯学習社会の一翼を担う博物館として、より多くの方々に有意義に御利用いただけるように御指導、御支援を賜りますようお願いいたします。

平成6年4月1日

岐阜県博物館長 横山 勢津 男

# I 博物館概要

## 〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより、広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

## 〔基本的性格と方針〕

### 1. 基本的性格

岐阜県の人文(考古、歴史、民俗、美術工芸)・自然(動物、植物、地学)等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究及びそれらの活用を図る総合博物館とする。

学校教育・社会教育との密接な連携を図り、利用者が楽しく学習することができ、未来への研究心と創造性を開発させるような生涯学習機関とする。

県内の博物館及び相当施設との連携をとり、資料の交換、提供を図り、本県の中央博物館としての役割を果たす内容と設備を有する施設とする。

資料の開発及び保存並びに活用について、専門的な調査研究を推進する。

### 2. 基本的方針

#### (1) 資料収集

県内の歴史・考古・民俗・美術工芸・自然等に関する資料を収集する。

資料は、実物を中心とするが、必要に応じて厳密な考証に基づく復元模型を含める。

寄贈、寄託、借用、購入等により収集する。

#### (2) 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。

常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の2部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるよう平易な展示を心掛け、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度のものとする。

展示の方法は、「(ア)生涯学習の場として、幅広い層に親しめる展示。(イ)資料の単なる羅列ではなくストーリー性のある展示。(ウ)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示。(エ)できる限り実物資料の展示をするが、更に、図表、模型等多種類の資料も活用。(オ)視聴覚機器などを取り入れ、見る人に強く訴える設備。(カ)明確で分かりやすい解説」とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

#### ○人文展示室1 (人文総合展示)

主題「郷土のあゆみ」—原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色を分かりやすく展示する。

#### ○人文展示室2 (人文課題展示)

主題「郷土の美術工芸」—特色ある郷土の美術工芸を部門別、時代別に展示する。

#### ○自然展示室1 (自然総合展示)

主題「郷土の自然とおいたち」—郷土の自然の概要を生態的に分かりやすく展示する。

#### ○自然展示室2 (自然課題展示)

主題「郷土のさまざまな自然」—特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

#### ○特別展示室 (特別展示)

特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

### (3) 事業運営

資料は、本県の歴史的発展の立場から価値のあるもの、また県内の自然にかかわる価値のあるものを保全し、収集保存する。

常設展示は、県民の学習に役立たせるため、展示構成の充実を図る。特別展示は、テーマの設定に配慮し、内容の充実を図る。

調査研究は、資料に関する専門的、技術的な調査研究と、資料の展示、保存に関する研究を行う。

教育普及は、各種の催しものを通じて県民の理解と関心を深め、生涯学習の場づくりをする。併せて各種の啓発活動を推進する。

## 〔沿革〕

岐阜県博物館は、置県百年記念事業の1つとして、昭和51年5月5日、アカマツなどの自然林の生える里山の中に開館した。

県内各地の豊かな資料をもとに、常設展示を人文展示室1・2、自然展示室1・2に分け、郷土岐阜県を紹介した総合博物館である。

また、特別展を年に数回開催している。

博物館建設準備段階からの沿革は次のとおりである。

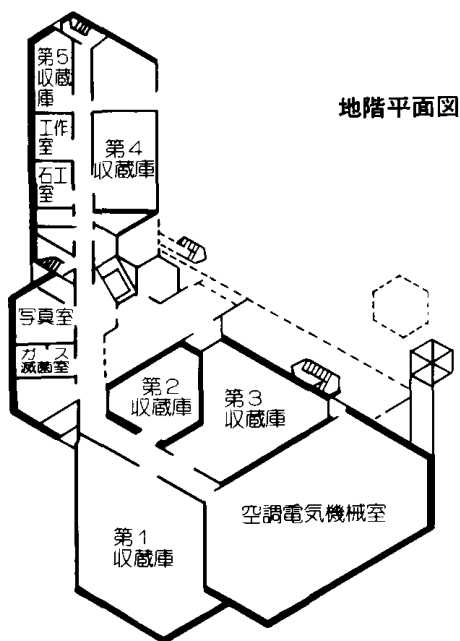
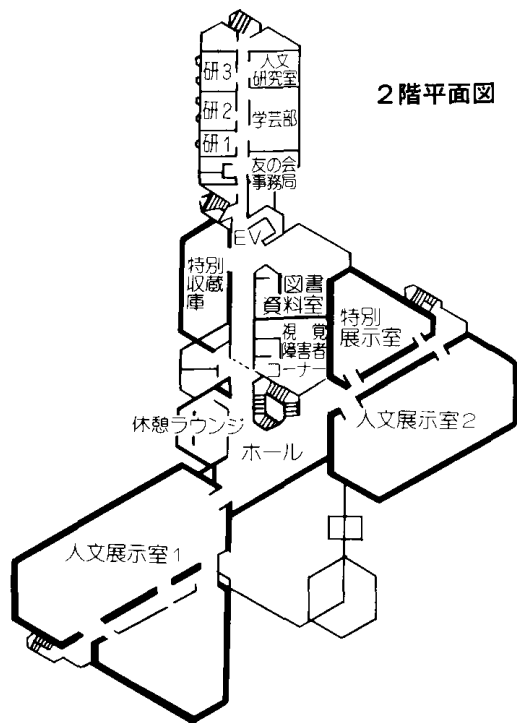
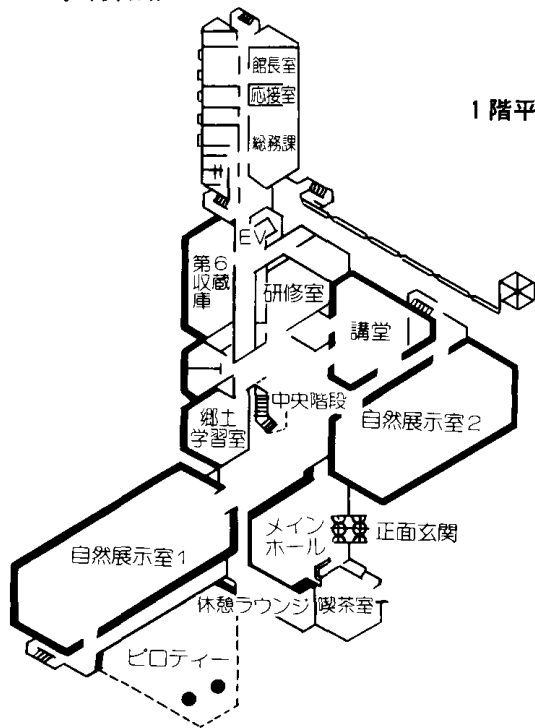
昭和46年3月 岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定  
4月 教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置  
6～9月 博物館懇談会を設ける  
昭和47年4月 博物館開設準備室を設置  
展示委員会を設ける  
昭和48年8月 起工式挙行  
昭和49年3月 展示実施計画樹立  
10月 定礎式  
昭和50年3月 展示工事着手  
7月 本館建築竣工  
昭和51年1月 展示工事完了  
4月 岐阜県博物館条例公布  
岐阜県博物館設置  
展示資料等製作完了  
5月 開館記念式典挙行 一般公開  
巨匠三人展・スポーツ栄光展  
7月 皇太子 同妃殿下行啓  
8月 特別展「ふるさとの文楽」  
入館者10万人を突破  
10月 入館料徴収開始  
11月 特別展「熊谷守一展」  
昭和52年5月 特別展「日本伝統工芸秀作展」  
入館者20万人突破  
7月 特別展「郷土の化石展」  
11月 特別展「鉄斎」  
昭和53年4月 入館者30万人を突破  
特別展「濃飛の甲冑」  
7月 特別展「世界のコガネムシ」  
10月 特別展「能面と装束」

昭和54年4月 入館者40万人突破  
特別展「濃飛の先史時代」  
7月 特別展「世界の貝」  
10月 特別展「濃飛の文人」  
11月 「視覚障害者(触察)コーナー」開設  
昭和55年4月 特別展「宝暦治水と薩摩藩」  
5月 入館者50万人を突破  
7月 特別展「化石の世界」  
10月 特別展「蓑虫山人」  
昭和56年4月 特別展「美濃の絵馬」  
5月 入館者60万人を突破  
7月 特別展「御岳山は生きている」  
10月 特別展「ふるさとの美濃古陶」  
昭和57年4月 特別展「高賀山の信仰」  
入館者70万人突破  
7月 特別展「ふるさとの植物」  
10月 特別展「東洋の貨幣」  
昭和58年4月 特別展「岐阜県の考古遺物」  
5月 入館者80万人を突破  
7月 特別展「長良川」  
10月 特別展「郷土の生んだ先覚者」  
昭和59年4月 特別展「濃飛の戦国武将」  
7月 特別展「ふるさとの昆虫」  
8月 入館者90万人を突破  
10月 学習ビデオスタジオコーナー設置  
特別展「濃飛の蘭学」  
昭和60年4月 特別展「濃飛の縄文時代」  
7月 特別展「鉱物の世界」  
10月 特別展「美濃の刀剣」  
入館者100万人を突破  
12月 自然展示室2を改装  
昭和61年4月 特別展「徳山の四季とくらし」  
7月 特別展「奥飛驒の自然」  
9月 人文展示室1を改装  
10月 開館10周年記念式典を挙行  
開館10周年記念展「ふるさとの祭り」  
昭和62年4月 特別展「濃飛の弥生時代」  
入館者110万人を突破

- |          |                                                                                                                          |         |                                      |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--------------------------------------|
| 7月       | 特別展「外国から侵入した生きものたち」                                                                                                      | 4月      | 特別展「飛驒のあけぼの—交流する縄文・古代人—」             |
| 10月      | 特別展「飛驒の匠」<br>旧徳山村民家移築復元                                                                                                  | 7月      | 特別展恐竜王国「恐竜—謎とロマン—」                   |
| 昭和63年 1月 | 自然展示室1を改装                                                                                                                | 10月     | 特別展「近世に輝く濃飛の群像」                      |
| 4月       | 特別展示室ショーケース改修<br>特別展「ふるさとの湿原」                                                                                            | 平成5年 3月 | 入館者 150万人を突破                         |
| 7月       | 中部未来博88記念展「中山道—美濃十六宿」                                                                                                    | 4月      | 特別展「土と炎の芸術」                          |
| 10月      | 特別展「中生代の化石」<br>入館者120万人を突破                                                                                               | 8月      | 入館者1千人にアンケート実施                       |
| 平成元年 4月  | 特別展「濃飛の古墳時代」                                                                                                             | 9月      | 29日大型ほ乳類足跡化石を美濃加茂市で発掘                |
| 7月       | 特別展「ふるさとの野鳥」                                                                                                             | 10月     | 特別展「失われゆく植物」                         |
| 8月       | 16日恐竜足跡化石白川村で発見                                                                                                          | 11月     | 「ハイパーハイビジョン風土記・岐阜」イメージシュミレーションソフトの完成 |
| 10月      | 特別展「移ろいゆく年中行事」                                                                                                           | 平成6年 1月 | 20日マイ・ミュージアム棟起工式                     |
| 11月      | 日本生命財団より図書「岐阜県博物館総合案内」4,000冊の寄贈を受ける                                                                                      | 3月      | 大型ほ乳類足跡化石を展示                         |
| 平成2年 4月  | 特別展「輪中と治水」                                                                                                               |         |                                      |
| 7月       | 特別展「白山の自然」<br>「恐竜足跡化石レプリカ」除幕式<br>グリーンアドベンチャー標識設置（自然観察のこみちに）<br>岐阜県博物館協議会に「新しい時代・県民ニーズに対応できる博物館の在り方について」諮問<br>入館者130万人を突破 |         |                                      |
| 10月      | 特別展「濃飛の仏像」                                                                                                               |         |                                      |
| 12月      | 岐阜県博物館協議会より中間答申                                                                                                          |         |                                      |
| 平成3年 3月  | 岐阜県博物館案内標識を設置                                                                                                            |         |                                      |
| 平成3年 4月  | 特別展「ふるさとの木の文化」                                                                                                           |         |                                      |
| 7月       | 特別展「ふるさとの哺乳動物」                                                                                                           |         |                                      |
| 10月      | 置県120年・岐阜鹿児島姉妹県盟約20周年記念展「鹿児島—その自然と歴史—」                                                                                   |         |                                      |
| 11月      | 入館者140万人を突破                                                                                                              |         |                                      |
| 平成4年 3月  | 岐阜県博物館協議会より「新しい時代・県民ニーズに対応する博物館の在り方について」答申                                                                               |         |                                      |

〔施設・設備〕

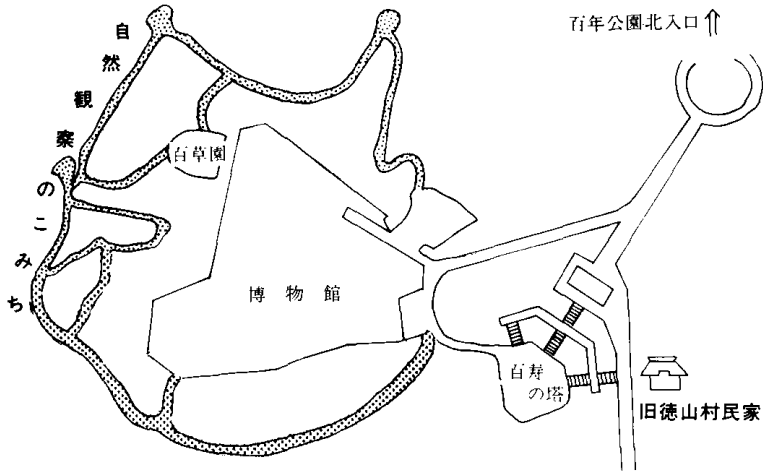
1. 博物館



・主要室名及び面積

	室名	面積 (㎡)
1 階	自然展示室 1	583.8
	自然展示室 2	478.8
	郷土学習室	95.4
	講堂	174.5
	研修室	93.2
	第 6 收藏庫	142.8
2 階	人文展示室 1	942.2
	人文展示室 2	478.8
	特別展示室	193.2
	図書資料室	232.0
	視覚障害者コーナー	58.4
地 階	特別收藏庫	142.8
	第 1 收藏庫	314.1
	第 2 收藏庫	126.0
	第 3 收藏庫	192.0
	第 4 收藏庫	99.4
	第 5 收藏庫	55.0

## 2. 野外施設



### (1) 自然観察のこみち

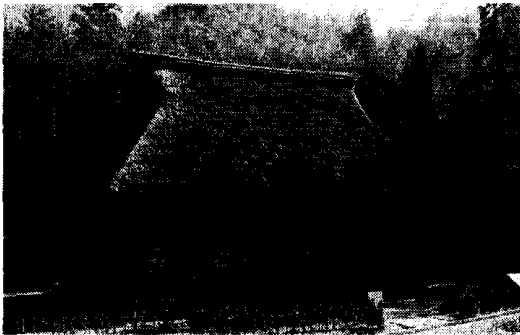
館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中に生きた展示として、季節とともに移り変わる自然のすがたを観察できるようにしたこみちである。

全長約830mで、途中見晴らし台が3ヶ所、万葉集の植物の案内、ツツジの群生地、百草園、マンサクの林などが設けられている。

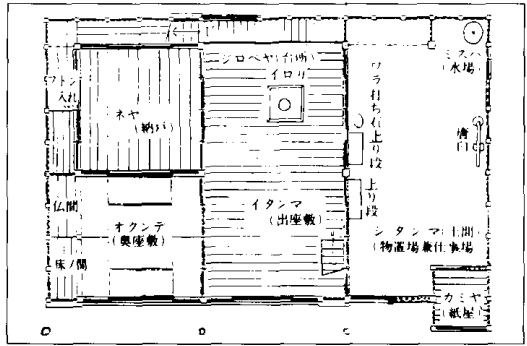
なお、樹林の特徴などが学習できるようグリーンアドベンチャー常設コースとして、40本の樹木にQ&Aパネルを設置している。

### (2) 旧徳山村民家

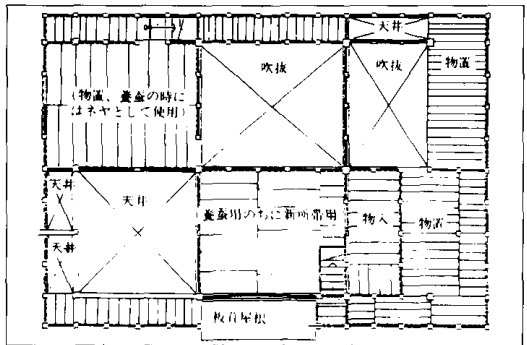
徳山ダム建設計画に伴い、徳山村は閉村となり藤橋村になったが、徳山の生活を後世に語り継ぐため、当時徳山村戸入<sup>とにゅう</sup>在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了したもので、生活用具なども展示し無料開放している。



- ・様式 木造かやぶき2階建、南平入り
- ・主材 プナ・トチ
- ・建面積 120.97㎡
- ・延面積 197.48㎡
- ・間取り 下図参照
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・屋根 入母屋式、切り落とし窓つき



▲ 1階間取り図

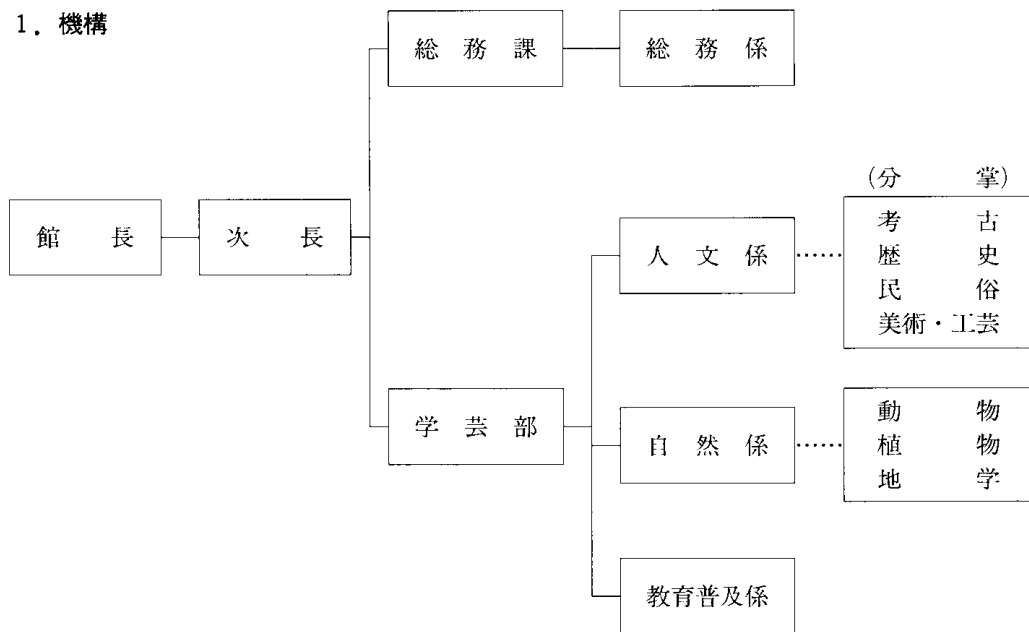


▲ 2階間取り図

## II 平成6年度 組織・運営

### 〔組織〕

#### 1. 機構



#### 2. 職員

平成6年4月現在

職名	氏名	職名	氏名
館長	横山 勢津男	(学芸部)	
次長兼総務課長	安江 真澄	学芸部長	石井 新太郎
(総務部)		課長補佐兼人文係長	野原 薫
総務係長	斎藤 紘子	課長補佐(美術工芸担当)	水野 亘
主任	市原 聡	〃(民俗〃)	安田 守
主	千田 清	〃(歴史〃)	平井 正
〃	大滝 陽子	学芸主事(考古・歴史〃)	大塚 章
〃	酒井 美奈	課長補佐兼自然係長	遠藤 俊治
業務嘱託員	長谷川 陽子	課長補佐(地学担当)	下畑 五夫
〃	亀山 綾子	〃(動物〃)	杉山 隆則
〃	加藤 京子	〃(地学〃)	川合 康司
〃	田代 千津子	学芸主事(植物〃)	井上 好章
〃	竹内 寿子	学芸嘱託員(昆虫〃)	説田 健一
〃	古野村 美保子	課長補佐兼教育普及係長	安藤 志郎
		(兼) 課長補佐	平井 正春
		学芸主事	三尾 寛次
		学芸嘱託員	今尾 英夫
		〃	大前 匡昭
		〃	梅溪 昌美



### 3. 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、または意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例（昭和51年）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

平成6年3月31日現在（五十音順）

氏名	勤務先	現職名
浅野 晃	岐阜市立梅林中学校	岐阜県中学校長会会長
奥村 隆	岐阜市立加納小学校	岐阜県小学校長会会長
小瀬 洋喜	大垣女子短期大学	大垣女子短期大学学長
片桐 武司	学校法人岐阜済美学園	岐阜県私立中学高等学校協会会長
金岡 勝一	岐阜県立大垣北高等学校	岐阜県高等学校長協会副会長
熊田 光久	岐阜県博物館友の会	岐阜県博物館友の会会長
○坂倉 又吉	千代菊(株)	千代菊(株)取締役会長
篠田 薫	かぐや第三幼稚園	学校法人篠田学園 かぐや第三幼稚園副園長
嶋崎 藤雄	岐阜市方県公民館長	岐阜県公民館連合会会長
◎土屋 齊	(株)大垣共立銀行	(株)大垣共立銀行取締役名誉会長
溝脇 昭人	名古屋テレビ放送(株)岐阜支局	名古屋テレビ放送(株)報道部
和田 吉弘	岐阜大学教育学部	岐阜大学教育学部生物地学科教授

#### 〈開催状況〉

月日 5年12月・8日(休)

場所 岐阜県博物館

第一会議室

報告 ● 県博物館の現況について

議事 ● マイ・ミュージアムの企画・運営の在り方について

● 「ハイパー・ハイビジョン風土記・岐阜」の構想について

◎…会長 ○…会長代理

### 〔事業計画〕

#### 1. 展示活動

事業名	期間	主な展示内容
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸について展示。刀剣コーナーは年4回展示替えを行う。
特別展 「川に生きる～水運と漁労～」	4/26～6/19	木材の川流しから筏による輸送、川を渡る籠の渡しや船橋、川魚をとる漁具などに関する資料により、川とともに生きた人々の姿を紹介する。
「美濃山地の自然～能郷白山と根尾谷～」	9/27～11/23	動・植物、地質の分布において特異な構造を示す能郷白山一帯の自然を、そこに生活する人々との関わりを含めて総合的に紹介する。
資料紹介展 「自然界のふしぎ発見」	7/17～9/4	自然界のさまざまな不思議な生態や現象を、岩石、鉱物、植物、昆虫、きのこ、共生の世界といった部門に分けてやさしく紹介する。
特別陳列 「ふるさとの文化財紹介展」	2/3～3/24	岐阜県下各市町村に所在する国や県指定の文化財をはじめとした優れた文化遺産を、シリーズ企画で紹介する。本年度は西濃地区を対象とする。
スタディーコーナー		自然と人文の両分野について、館蔵資料を中心にテーマを設けて紹介する。

## 2. 教育普及事業

事業名	期日	対象	定員	内容
特別展講演会	5/1	高大生・一般		「長良川のアユづくり」岐阜大学教授和田吉弘氏
〃	5/29	〃		「筏を流す」岐阜大学教授松田之利氏
〃	10/23	〃		「美濃山地の地史」岐阜大学助教授小井土由光氏
〃	11/20	〃		「美濃山地の生物相」名古屋女子大学教授佐藤正孝氏
文化講演会	11/3	高大生・一般		「海の文化・山の文化」作家高田宏氏
日曜講座	5/8	高大生・一般		特別展「川に生きる」展示のみどころ
〃	5/15	〃		飛騨川・木曽川の木材流送
〃	7/17	小学生以上一般		鉱物・動物のふしぎ
〃	8/28	〃		植物・昆虫のふしぎ
〃	10/9	高大生・一般		特別展「美濃山地の自然」展示のみどころ
〃	10/16	〃		ふるさとのほ乳動物
〃	1/29	〃		濃飛の古代寺院
〃	3/19	〃		「ふるさとの文化財紹介展」展示のみどころ
自然観察会	4/9	小学生以上一般	50人	春のチョウを観察しよう（たのしい土曜教室対応）
〃	4/29	〃	50人	観察のこみちの植物を調べよう （グリーンアドベンチャー事業）
〃	5/22	〃	45人	根尾・美山の昆虫・植物ウォッチング
〃	9/10	〃	50人	秋のチョウを観察しよう（たのしい土曜教室対応）
〃	11/6	〃	45人	根尾・美山の化石ウォッチング
〃	1/14	〃	50人	百年公園のバードウォッチング （たのしい土曜教室対応）
ジュニア 恐竜探検隊	8/12 ～13	親子	50人	探検!! 恐竜回廊（福井県との交流事業） 宿泊：福井県立青少年センター
陶芸教室	6/26	一般	30人	茶碗 岡田春海さん
〃	9/25	〃	30人	花瓶 岡田春海さん
親子教室	5/5	親子	40人	紙でいろいろなものをつくろうⅠ 水野政雄氏
〃	5/14	〃	50人	やきもの（人形をつくろう）（たのしい土曜教室対応）
〃	6/11	〃	50人	やきもの（日用品をつくろう）（たのしい土曜教室対応）
〃	7/9	〃	40人	たのしい切絵（たのしい土曜教室対応） 今井雅巳氏
〃	7/31	〃	40人	火おこし器をつくろう
〃	8/21	〃	50人	竹細工（笛・竹とんぼをつくろう）石原文雄氏
〃	10/30	〃	80人	体感、「きのご王国」秋だ！旬だ！ 主催/岐阜県林政部
〃	12/4	〃	50人	凧をつくってあげよう 石原文雄氏
〃	12/10	〃	40人	版画で年賀状をつくろう（たのしい土曜教室対応）
〃	12/18	〃	50人	わら細工（しめなわをつくろう）大野仁久氏
〃	2/19	〃	40人	紙でいろいろなものをつくろうⅡ 水野政雄氏
たのしい土曜教室	10/8	小中生・親		クイズで探検!! 博物館
〃	11/12	〃	40人	よろい・かぶとのつくりを知ろう
〃	2/11	〃	100人	博物館の資料をかこう（写生会）
〃	3/11	〃	50人	美しい貝を知ろう
ふるさと探訪	11/23	小学生以上一般	45人	美濃焼のふるさとを訪ねて
特別行事	1/8		200人	七草がゆを食べよう
民俗芸能	5/3			関孫六太鼓（雨天時5/4に順延）

### III 平成5年度のあゆみ

#### 〔職員〕

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	横 山 勢 津 男	[学 芸 部]	
次 長 兼 総 務 課 長	安 江 真 澄	学 芸 部 長	渡 辺 利 昭
〔総 務 部〕		課 長 補 佐 兼 人 文 係 長	野 原 薫
総 務 係 長	斎 藤 紘 子	課 長 補 佐 (美 術 工 芸 担 当)	水 野 亘 雄
主 任	市 原 聡	〃 (民 俗 〃 )	安 田 守 治
主 事	千 田 友 清	〃 (歴 史 〃 )	今 津 利 治
〃	仁 科 純 子	学 芸 主 事 (考 古 〃 )	大 塚 章
〃	酒 井 美 奈	課 長 補 佐 兼 自 然 係 長	遠 藤 俊 治
業 務 嘱 託 員 ~12月	坂 井 真 紀	課 長 補 佐 (植 物 担 当)	後 藤 常 明
〃	長 谷 川 陽 子	〃 (動 物 〃 )	杉 山 隆 則
〃	亀 山 綾 子	学 芸 主 事 (地 学 〃 )	前 田 伸
〃	加 藤 京 子	学 芸 嘱 託 員 (昆 虫 〃 )	説 田 健 一
〃	田 代 千 津 子	課 長 補 佐 兼 普 及 係 長	安 藤 志 郎
〃	竹 内 寿 子	課 長 補 佐	平 井 正 春
〃 (1月~)	古 野 村 美 保 子	学 芸 主 事	三 尾 寛 次
		学 芸 嘱 託 員	今 尾 英 夫
		〃	大 前 匡 昭
		〃	梅 溪 昌 美

#### 〔日誌抄〕

退職 館 長	篠 田 幸 男	転入 館 長	横 山 勢 津 男
学芸嘱託員	桑 原 克 巳	次長兼総務課長	安 江 真 澄
業務嘱託員(12月31日)	坂 井 真 紀	課長補佐兼教育普及係長	安 藤 志 郎
転出 次長兼総務課長	尾 藤 俊 二	総務係長	斎 藤 紘 子
課長補佐兼教育普及係長	小 川 敏 雄	課長補佐	杉 山 隆 則
課長補佐兼自然係長	国 光 正 宏	〃	平 井 正 春
総務係長	武 田 正 雄	学芸主事	前 田 伸
課長補佐	中 島 恬	〃	三 尾 寛 次
学芸主事	大 平 高 司	主 事	千 田 友 清
主 事	鈴 木 猛 久	昇格 課長補佐兼自然係長	遠 藤 俊 治
		新任 学芸嘱託員	大 前 匡 昭
		〃	梅 溪 昌 美
		業務嘱託員(1月1日)	古 野 村 美 保 子

平成5年度

- 4・1 「岐阜県博物館報」第16号発行
- 10 たのしい土曜教室「チョウを観察しよう」
- 26 特別展「土と炎の芸術」開場式（6月27日まで）
- 29 自然観察会「観察のこみちの植物を調べよう」
- 5・2 民俗芸能「関孫六太鼓」
- 5 親子教室「紙でいろいろなものをつくろう」
- 8 たのしい土曜教室「やきもの（人形をつくろう）」
- 14 岐阜県博物館協会総会
- 16 陶芸教室「茶碗」
- 23 自然観察会「ふるさとの化石を観察しよう」
- 27 四館連絡会議
- 6・6 陶芸教室「花瓶」
- 12 たのしい土曜教室「やきもの（日用品をつくろうー施釉ー）」
- 17 第二次県恐竜化石調査団結成式
- 24 岐阜県大型ほ乳類足跡化石保存調査検討委員会
- 7・6～7 東海地区博物館連絡会議（於：名古屋）
- 10 たのしい土曜教室「ふるさとの祭りの映画をみよう」
- 18 資料紹介展「川と自然」（9月5日まで）
- 25 県博日曜講座「水辺の植物」
- 30 岐阜県大型ほ乳類足跡化石保存等連絡協議会
- 25 県博日曜講座「水辺の植物」
- 27 岐阜県児童生徒科学作品展移動展（8月8日まで）
- 8・1 県博日曜講座「川とけものたち」
- 7～8 ふるさと自然探検隊「高原の自然をさぐるよう」
- 8 県博日曜講座「飛驒・木曾の木材といかだ流し」
- 15 親子教室「火おこし器をつくろう」
- 22 自然観察会「川原の昆虫を観察しよう」
- 29 親子教室「竹細工（笹竹とんぼをつくろう）」
- 9・5 県博日曜講座「川のはたらき」
- 11 たのしい土曜教室「博物館を探検しよう」
- 28～29 大型ほ乳類足跡化石切り取り作業
- 10・6 特別展「失われゆく植物」（11月28日まで）
- 10・9 たのしい土曜教室「中山道の映画を見よう」
- 24 県博日曜講座「今、資源植物が危ない」
- 31 親子教室「紙で恐竜をつくろう」
- 11・3 文化講演会「漫画と文化」
- 4 福井県・岐阜県恐竜化石調査交流会
- 7 ふるさと探訪「街道を歩こう（美濃路）」
- 13 たのしい土曜教室「失われゆく植物を知ろう」
- 14 特別展講演会「絶滅の危機にある植物」
- 25～26 東海三県博物館協会交流研修会（於：豊橋市）
- 12・8 岐阜県博物館協議会
- 11 たのしい土曜教室「版画で年賀状をつくろう」
- 12 親子教室「凧をつくってあげよう」
- 19 親子教室「わら細工（しめなわをつくろう）」
- 1・8 たのしい土曜教室「野鳥を観察しよう」
- 9 特別行事「七草がゆを食べよう」
- 20 マイ・ミュージアム（仮称）建設工事起工式
- 23 県博日曜講座「中山道と美濃路」
- 26 平成5年度消防訓練
- 2・1 特別陳列「学校宝物展」（3月31日まで）
- 12 たのしい土曜教室「博物館の資料をかこう」
- 3・12 たのしい土曜教室「春をさがそう」
- 18 大型ほ乳類足跡化石一般公開

## 〔実施事業の概要〕

長い間の夢であり、懸案であった県民参加型博物館「マイ・ミュージアム」の起工式が平成6年1月20日、知事以下、関係者80名が参加して行われた。開館以来の大事業がスタートしたのである。

この建物は、鉄骨鉄筋コンクリート構造で、地上3階地下1階、総面積は約1,600㎡で、完成は平成7年3月末の予定である。なお、完成後活用が期待されている1階マイミュージアムホールでの展示品（マイコレクション）の公募の開始、2階ハイビジョンホールで上映が予定されているインタラクティブに操作できる「ハイパーハイビジョン風土記・岐阜」（美濃路）に先立って作られたイメージソフトの完成も付記しておきたい。（詳細は別掲）

次に特筆すべきことは、美濃加茂市の木曾川右岸で発見された日本最古の大型ほ乳類足印化石の採取である。3月末には展示公開し好評を博した。これに係わって調査団も結成され成果を得た。

施設面では、環境整備事業として、本年度も屋上防水工事が行われた。展示備品としてはミカワバイケイソウの複製品、アマゴなど魚類の剥製標本が作製できた。

### 1. 調査研究活動

人文関係では、「岐阜県の風土」というテーマで、東濃・中濃地区の民俗について、自然関係では「奥美濃の自然」というテーマで能郷白山一帯の地形・地質・動植物の学術調査・研究を行った。

### 2. 展示活動

下の表に示すように、特別展2回、資料紹介展1回、特別陳列1回を行った。

### 3. 資料収集活動

人文関係では、来年度の特別展に因んで、川に関する民俗資料の収集に努めた。自然関係では、やはり特別展との関係で、絶滅危惧植物の標本資料の収集に力点を置いた。

### 4. 教育普及活動

今年も、きめの細かい教育普及活動ができた。日曜講座（6回）をはじめ、親子教室（6回）などみな盛況であった。土曜教室（11回）も定着したようである。なお、友の会会員のボランティアの参加を得て行われた「七草がゆを食べよう」は、2年目を迎え、参加者数240名という人気ぶりであった。

なおまた、入館者にアンケートを実施し、貴重な資料を得ることができた。年間入館者数は63,444人であった。

事業名	期間	展示内容	入館者数
常設展	年間	織田信長像、戸田氏鉄像などの軸物や伎楽・行道・能楽などに使用する面の展示も行った。刀剣も随時入れ換えた。	
特別展 土と炎の芸術 ～ふるさとに息づく技と心～ 失われゆく植物	4/27～6/27 10/6～11/28	郷土を代表する美濃古陶をはじめ、県下各地に継承されている諸窯の代表作を展示。 失われゆく植物とそれらを守り育てようとする取り組みについて紹介。	16,699 16,304
資料紹介展 川と自然	7/18～9/5	木曾・長良・揖斐の三川を中心に、河川がつくりだす環境とそこに生きる動物の姿を紹介。	10,613
特別陳列 学校宝物展	2/1～3/31	岐阜・西濃・美濃地区の小・中学校80校がもっている貴重な資料を展示・紹介。	8,012
スタディーコーナー	年間	ふるさとの化石（4月）、岐阜県のスケ（5・6月）、セミの仲間（7・8月）、石灰岩とかこう岩（9・10月）、動物の骨格（11・12月）、カモ（1・2月）、刀剣（12～3月）、ふるさとの植物化石（3月）	
足跡化石等展示	3/18～	木曾川で発見された大型ほ乳類足跡化石の実物標本を展示。	

## 〔刀剣展示・スタディーコーナーの概要〕

### 1. 刀剣コーナー

人文展示室2に刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。5年度の年間展示資料は下記のとおりである。

特に、第2期には、太刀・打刀・薙刀・脇指・

短刀・槍など各種の刀剣を展示し、小中学生から一般の方にも広く刀剣に親しめるようにした。

### 2. スタディーコーナー（人文）12月～3月

刀剣への理解をより一層深めてもらうために、刀剣の名称や種類、鑑賞のポイントなど、実物資料を用いて分かりやすく解説した。

第 1 期				第 2 期				第 3 期			
平成5年4月1日 ～平成5年7月4日				平成5年7月5日 ～平成5年12月5日				平成5年12月6日 ～平成6年3月31日			
刀	無銘	志	津	刀	無銘	志	津	太刀	銘	助	守
刀	無銘	直	江	刀	無銘	直	江	刀	無銘	伝	正
刀	銘	濃	州	太刀	銘	兼	光	刀	無銘	志	津
太刀	銘	長	谷	刀	銘	濃	州	刀	無銘	直	江
太刀	銘	波	平	短刀	銘	兼	直	刀	銘	兼	元
脇差	銘	兼	見	槍	銘	兼	若	刀	銘	濃	州
槍	銘	志	津	薙刀	銘	備	前	短刀	銘	兼	元
槍	銘	兼	若	脇指	銘	丹	波	槍	銘	兼	若
				脇指	銘	二	王	脇指	銘	丹	波

### 3. スタディーコーナー（自然）

このスタディーコーナーでは、ふるさとの自然資料に関わるトピック的な話題や、季節にマッチした身近なテーマを、地学、動物、植物の各分野ごとに実物資料と解説パネルでわかりやすく展示紹介してしている。

#### ◇「ふるさとの化石」……3月～4月

岐阜県には、福地・赤坂と日本を代表する古生代の化石を産する地域がある。今回は、この地域の化石を中心に紹介した。

#### ◇「岐阜県のスゲ」……5月～6月

スゲ傘を作るスゲの仲間は、花も目立たず、分類が極めて困難なものとして調査も進んでいない。岐阜県には、90種ほどのスゲ類が生育しているが、その中から代表的な種類の標本を紹介した。

#### ◇「鳴く虫・セミの仲間」……7月～9月

日本には32種のセミが生息している。このうちヒメハルゼミなど岐阜県に生息する13種の“鳴く虫”セミの生態を紹介した。

#### ◇「神岡鉱山の鉱物」……10月～11月

神岡鉱山で産出されたセン亜鉛鉱、黄銅鉱、方解石などの鉱物と、鉱物から作り出された製

品を紹介した。

#### ◇「動物の骨格」……11月～12月

動物の骨格を見る機会は少ない。したがって今回は、哺乳動物のノウサギ、ヌートリア、ムササビ、モグラなどの全身骨格を紹介した。

#### ◇「水辺の鳥・カモ」……1月～2月

冬鳥「カモ」には、姿の美しい鳥が多い。今回は、アヒルの原種であるマガモ、長い尾（ピンテール）をもつオナガガモなど、よく親しまれている鳥を中心に紹介した。

#### ◇「ふるさとの植物化石」……3月～

植物化石は、地質時代の気候を類推するのに適した資料である。今回は、新生代の岐阜県産植物化石とそれに関わる動物化石を紹介した。



## 〔特別展〕

### 1. 「土と炎の芸術

～ふるさとに息づく技と心～

4月27日(火)～6月27日(日)

郷土岐阜県の焼き物は、瀬戸黒、黄瀬戸、志野、織部など東濃地方の美濃焼に代表される。これらは、桃山時代から江戸時代の初期にかけて本格的に発展し、末期には磁器の製法も伝わり、美濃焼の生産活動はますます活発になった。一方、小規模ではあるが、飛騨の小糸焼、淡草焼、山田焼、岐阜の金華山焼、大垣の温故焼など県下各地に新しい窯場が生まれた。

本展は、郷土を代表する美濃古陶をはじめとして、県下各地に継承されている諸窯の代表的作品を一堂に展示し、ふるさとに息づく技と心のすばらしさを理解していただくことを願って企画した。

#### 〈展示構成の概要〉

展示は、過去より出発し、現在そして未来へとつながっていく技と心を見つめ、味わっていただけるようにと、次のように大きく4つの構成で紹介した。

I. 美濃の焼き物の流れ II. ふるさとの焼き物 ((1)今に息づく技と心 (2)蘇<sup>いそ</sup>らせたい技と心) III. 現代の焼き物 IV. 焼き物の科学

また、作品資料は600余点、その他の資料200余点と、多彩かつ多量の展示となった。

#### I. 美濃の焼き物の流れ (須恵器から現代)

古墳時代後期の、轆轤<sup>ろくろ</sup>で成形し、<sup>あながま</sup>窖窯で高火度焼成がなされ、自然釉<sup>ゆう</sup>がかかった焼き物―須恵器―から、桃山陶の志野焼を再現し人間国宝になった荒川豊蔵たちの現代までの美濃で焼かれた焼き物を時代順に紹介した。



特に、国重文の「美濃国」の刻印入りの須恵器や技術革新によって誕生した美濃独特の焼き物―瀬戸黒、黄瀬戸、志野、織部の桃山陶を中核に展示し、その名品を味わってもらった。また各種の染付技法による美しい磁器も見どころの一つとした。

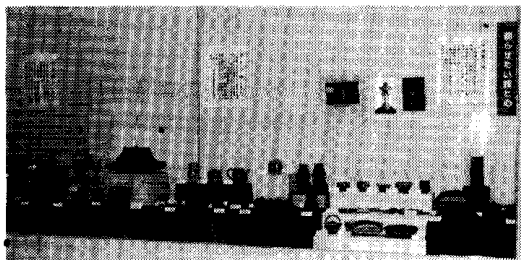
#### II. ふるさとの焼き物

##### (1)今に息づく技と心

技術や作品の形は違え今なお焼かれている小糸焼や淡草焼、温故焼など6つを紹介した。

##### (2)蘇<sup>いそ</sup>らせたい技と心

名工と謳<sup>うた</sup>われた加藤春岱の今尾春岱焼、日光東照宮の陽明門を焼き物で作品化した成瀬誠志<sup>しんたい</sup>の茄子川<sup>なすびがわ</sup>焼、多くの個性豊かな作家を輩出した金華山焼など17の焼き物を紹介した。



#### III. 現代の焼き物(県下の代表的作家の作品)

伝統的な焼き物の技と心を受け継いだ作家と創作的な焼き物を追求している作家の作品22点を展示し、美濃焼の流れの延長線とした。

#### IV. 焼き物の科学

釉薬と焼成の関係を科学的な面から紹介した。

#### 〈関連事業〉

##### ○特別展講演会

「織部焼の源流と国際性」 6/20(日)

美濃陶芸協会名誉会長 加藤卓男氏

##### ○陶芸教室(対象 一般 定員30名)

①「茶碗」5/16(日) ②「花瓶」6/6(日)

美濃陶芸協会副会長 小林文一氏

##### ○たのしい土曜教室(対象 小中学生と親)

①「やきもの(人形をつくろう)」5/8(土)

②「やきもの(日用品をつくろう)」6/12(土)

##### ○陶芸実演

毎日曜日(午前と午後の2回)・ロクロ実演

関市女性陶芸家 岡田春海さん

##### ○図録「土と炎の芸術」(B5判 72ページ)

## 2. 特別展「失われゆく植物」

10月6日(水)～11月28日(日)

めざましい経済成長により、私たちの生活は便利になり、生活水準も向上した。その一方で、豊かな自然やそこを生活場所とする多様な動植物が姿を消しつつあることも事実である。

野生植物では、農家を悩ました水田雑草のサンショウモや各地の小川にみられたクロモから、限られた地域にしか分布しないシデコブシやミカワバイケイソウなどまで、その自生地が失われようとしている。

本展では「失われゆく植物」と題し、岐阜県を中心にして絶滅のおそれのある野生植物の現状を紹介した。この展示をとおして野生生物種の保護についての理解を深めること、失われゆく植物とその背景にある人間の活動を見直す機会とすることを目指した。

### 〈展示内容〉

展示は、次の5コーナーに分けて、絶滅危惧植物の標本ならびに関連資料、自然との共存への取組みの現状を示す資料等272点を展示した。



### (1)植物の音が聞こえますか

植物界の役割とそこに起こっている様々な変化・異変を実物・写真資料等で紹介。

小テーマは、①植物は育ての親、②変わる植物相、③植物の異変とした。

### (2)これらの植物の絶滅はいつ

岐阜県から失われた植物や保護の必要な植物とそれらの自生していた環境を実物・写真・模型資料等で紹介。

小テーマは、①岐阜県から消えた植物、②絶滅が心配される植物とした。



### (3)自然との共存をめざして

自然との共存を図る取組の現状と課題を写真・生活資料などで紹介。

小テーマは、①人々の生活と植物、②自然との共存として、環境汚染の例やエコ商品等を展示し、人々の環境への配慮の現状を示した。

### (4)取組みが始まっている自然との共存

以前より進められている自然との共存に関する事業の例を、パネルや模型で紹介。

小テーマは、①森林生態系の保存、②多自然型川づくりとした。

### (5)井波一雄氏の植物画の世界「東海の希少植物」

岐阜県を中心にして、東海三県の絶滅が心配される植物の中から代表的な種類50点を精巧な筆づかいのボタニカル・アートで紹介。

### 〈関連事業〉

#### ○特別展講演会

「絶滅の危機にある植物」

11/14(日) 東京大学助教授 矢原徹一氏

#### ○県博日曜講座

「今、資源植物が危ない」

10/24(日) 岐阜薬科大学助教授 田中俊弘氏

#### ○たのしい土曜教室

11/13(土) 「失われゆく植物を知ろう」

#### ○図録出版

「失われゆく植物」(B5判 64ページ、カラー図版106、白黒図版99)。岐阜県の絶滅危惧・希少植物の大半を網羅。



## 〔資料紹介展〕

### (1)川と自然

7月18日(日)～9月5日(日)

県内には木曾、長良、揖斐の木曾三川をはじめ、宮川、庄川、土岐川など多くの河川が流れ古くから人々の生活を育んできた。また、川は豊かな自然をつくりだし、さまざまな植物を育て、魚、鳥、昆虫など多くの動物のすみかとなっている。

今夏の資料紹介展では、川がつくりだした環境とそこに生きる動植物の姿を総合的に紹介した。そして、最近人々の水に対する意識も高まりつつある中で、自然を見直す一助となることを意図した。

#### 〈展示構成〉

館蔵資料を中心に、180余点の資料を下記のような構成のもとに展示した。

- (1) 岐阜県の川
- (2) 上流域の自然 (山から)
- (3) 中流域の自然 (里へ)
- (4) 下流域の自然 (海へ)
- (5) 川の自然を調べよう

#### (1)岐阜県の川

全体の導入として、木曾川上流工事事務所より借用した木曾三川の水系図やランドサット撮影による写真パネルを展示した。

#### (2)上流域の自然 (山から)

上流で見られる地形 (V字谷、おう穴) の自作モデル、岩石の実物資料を展示した。また、ブナ林をジオラマにて再現し、林床の植物、ブナと関連する昆虫類(フジミドリ等)、ブナ林や溪流に生息する鳥類の標本を多数紹介した。ほ乳動物では、天然記念物であるカモシカをはじめ、ツキノワグマ、ヤマネ、テン、ノウサギの季節型を紹介した。さらに、上流域の魚類としてイワナ、ヤマメ、アマゴ、両生類のオオサンショウウオ、クロサンショウウオや水生昆虫類を展示した。

#### (3)中流域の自然 (里へ)

中流で見られる地形・地質の特徴として、扇状地・河岸段丘があげられる。各務原台地の礫

や恵那市の河岸段丘の剥ぎとり標本、地層モデルを展示した。生物では、ハンノキやヤナギ等川原の植物標本やスキのジオラマを作成しホンダタヌキ、ヌートリア、イタチ等を合わせて紹介した。また、中下流域に生息する魚類を木曾川に生息する魚類パネルとともに、液浸標本により紹介した。その中には、特別天然記念物のネコギギや天然記念物のハリヨも含まれている。

#### (4)下流域の自然 (海へ)

下流で見られる地形・地質として、濃尾平野を取り上げ、マガキの化石による濃尾平野の生い立ちを紹介した。動植物ではアシ原を中心として、そこに生息する世界最小のネズミであるカヤネズミやオオヨシキリとカッコウの托卵を取り上げた。また、河口付近に多く生息するカモ類やサギ・シギ類などの鳥の標本や川原の昆虫としてハンミョウを紹介した。

#### (5)川の自然を調べよう

このコーナーでは、小中学生の夏休みの自由研究の手助けになるよう、河口からの距離とレキの変化、水質を調べるための指標生物、水生昆虫の採集の仕方、動物を知る手がかりとなる足跡などを展示した。

また展示期間中は、手づくりリーフレットを無料で配布し、解説を補った。

#### 〈関連事業〉

資料紹介展開催中の関連事業として、下記のものを実施した。

日曜講座・自然観察会

7月25日(日)「水辺の植物」

8月1日(日)「川とけものたち」

8月22日(日)「川原の昆虫を観察しよう」

9月5日(日)「川のはたらき」

これらは、展示に関連した講座、観察会であるため有意義な活動であったと思われる。



## 〔特別陳列〕

### 「学校宝物展」

2月1日(火)～3月31日(木)

それぞれの学校には、開校以来今日まで歩んできた歴史と伝統があり、その学校にとって大切な記念品ともいべき品々がある。また、学校は、地域の文化センターとして、その地域のさまざまな文化遺産が寄せられることもあった。

そうした学校の「宝物」を紹介する本展は、今回が三ヵ年計画の最終年にあたり、岐阜・西濃・美濃地区の小・中学校80校で大切に保管されてきた品を展示した。本展を通して、学校の果たしてきた役割の一端を紹介し、各学校への理解を深めるとともに、郷土の文化を再発見していただく一助となるよう企画した。

#### 〈主な展示構成〉

①絵画の部（玄関等に掲げられている洋画、日本画等）②書の部（校長室等に掲げられている扁額や掛軸等）③歴史資料の部（学校の歴史を物語る学校日誌や旧校舎の鬼瓦等。また学校に保管されてる地域の歴史的遺物）④教育成果の部（学校の教育活動の成果である優勝盾や文集等）⑤その他の部（記念品として学校に寄せられた陶器や化石等）



▲川合玉堂画「三保の松原」（岐阜市立京町小学校）

#### 〈主な展示資料〉

(1)川合玉堂画「三保の松原」（岐阜市立京町小学校）

文化勲章を受章した日本画壇の巨匠である川合玉堂が、母校である京町小（岐阜高等小学校）に寄贈した大作。

(2)村瀬藤城自筆の書（美濃市立昭和中学校）

美濃市出身の漢学者で、教育者としても有名な村瀬藤城の直筆の書（額装）。

(3)致遠学校時代のばん木（養老町立日吉小学校）

始業などの合図として鳴らされたもので、明治8年に日吉小の前身致遠学校に寄贈された。

なお、ばん木  
のほかに、時鐘や振鈴、大時計など、学校に時を告げた品々を特集してコーナーを設けた。

(4)学校日誌（関市立安桜小学校）

明治25年から昭和32年まで書き継がれた71冊におよぶ学校日誌。その時代の出来事に対する学校や地域の反応がよく表現されている。

(5)ハリヨ（神戸町立南平野小学校）

地域のシンボルであり校歌にも歌われたハリヨを絶滅の危機から救おうと、人工池を造り飼育に取り組む姿を、ハリヨの展示を通して紹介した。

#### 〈展示資料数〉

絵画14点 書20点 歴史資料50点 教育成果8点 その他12点 計104点

#### 〈出品校〉

岐阜地区小・中学校33校（うち私立中学校1校） 西濃地区小・中学校34校 美濃地区小・中学校13校 計80校

本展の出品資料について、各小・中学校から200字以内の原稿をいただき、それをもとに展示解説を行い、解説書を作製した。



▲展示風景（ばん木、時鐘、大時計など）



▲学校日誌  
（関市立安桜小学校）

▲ハリヨ（神戸町立南平野小学校）

## 〔調査研究・資料収集活動〕

### － 自然部門 －

#### 1. 調査研究

##### 〈動物分野〉

##### (1) 奥美濃の調査及び資料収集

昨年に引き続き、当地域の主峰である能郷白山における小型ほ乳動物の調査を行った。登山道入口より山頂に至る登山道を中心に調査した。収集した主な資料は、ホンドハタネズミ、スミスネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、ヒメヒミズ、ヒミズなどであった。

##### (2) 奥美濃の調査及び資料収集（昆虫）

昨年に引き続き能郷白山地域を中心とした昆虫類の調査を行った。収集した主な資料は、コクイツツキノコムシ、ククイツツキノコムシ、コウノツツキノコムシ、チャイロヒメタマキノコムシ、キノコヒラタケシキスイ、オオクロチビシテムシ、ホソチビオオキノコ、ベニモンムクゲキスイであった。

##### 〈植物分野〉

##### (1) 奥美濃の調査及び資料収集

郡上郡明宝村寒水、武儀郡洞戸村、板取村、山県郡美山町西洞、柿野西洞において資料収集・写真撮影を行った。収集資料は特別展用に保管した。

##### (2) 失われゆく植物の調査及び資料収集

高山市松本町、清見村榎谷、岐阜市達目洞、富加町大平賀、根尾村水鳥谷、板取村内岬谷、関市東田原、揖斐川町小野、土岐市定林寺、朝日村秋神、海津郡目原、羽島市堀津、高知県安芸市、河合村天生、可見市羽崎等において絶滅危惧植物の調査及びサクラソウ、サルメンエビネ、ヒメコウホネ、ミカワバイケイソウ、シデコブシ、ミノシライトソウ、ヒメシャガ、イワザクラ、ミゾコウジュ、ナガエミクリ、イシモチソウ、アツモリソウ、クマガイソウ、タコノアシ、ガガブタ、オニバス、タキミシダ、ヤシビシヤク、ツメレンゲ等の写真撮影及び資料収集を行い、特別展「失われゆく植物」に展示した。本調査によって、54種のレッドデータ種の資料を収蔵することができた。

##### 〈地学分野〉

##### (1) 奥美濃の調査及び資料収集

本県根尾村地域の能郷白山、山県郡美山町の舟伏山において、岩石及び化石の調査を「地質図・岐阜」（工業技術院地質調査所発行）を基に実施した。また、能郷白山の花崗閃緑岩を収集し、絶対年代の計測を実施した。この測定結果及び収集資料は、来年度特別展に展示する。

##### (2) 岐阜県大型ほ乳類足跡化石等調査

平成5年3月14日、美濃加茂市内の木曾川右岸河床で、鹿野勘次氏（高等学校教諭）によって日本最古の大型ほ乳類足跡化石が発見された。

そこで、発見された足跡化石及び周辺の地質ならびに関連化石の学術調査を行なうため、緊急に「岐阜県大型ほ乳類足跡化石等調査団」を編成した。

また、河床に残された足跡化石を保存するため、関連する法規上の問題を処理し、足跡化石を含む岩体を切り取る技術的な検討を行なった。その後、木曾川の水位の低下を待って切り取り作業に着手し、平成5年9月29日、足跡化石を採取した。採取した足跡化石は、表面の強化処理・裏面処理等を施した後、平成6年3月18日からメインホールの一角を関連資料とともに展示した。

また、前記に関連する調査も、切り取り作業及び保存処理作業と並行して行なった。平成5年12月17日、平成6年1月25日に現地調査を実施し、新たに足跡化石の可能性のある岩石を採取し、地質調査を行なった。また、平成5年12月26・27日、平成6年2月28日には足跡化石の詳細な調査と現生動物との比較調査を行なった。



▲大型ほ乳類足跡化石標本

### (3)岐阜県恐竜化石調査

#### ①調査団の結成

岐阜県大野郡白川村の大白川上流域に分布する手取層群中から1989年に恐竜の足印化石が発見され、それを契機に岐阜県恐竜化石学術調査団（第一次）が結成された。同調査団は、1990～1992年の3年間にわたり白川村～荘川村地域に分布する手取層群について広範な学術調査を実施し、手取層群の層序区分や地質構造あるいは産出化石をもとに、同地域において恐竜化石が含まれる可能性の高い地層を明らかにした。

このような第一次調査団の成果を踏まえて、平成5年度は、恐竜化石が含まれる可能性の高い地層の中から恐竜化石を得ることを目標に、第二次岐阜県恐竜化石調査団を組織し、荘川村の尾上郷川支流大黒谷上流域において掘削調査を行なった。



▲掘削作業の状況

#### ②掘削地点及び掘削調査経過

掘削地点を含む尾上郷川流域に分布する手取層群は、下位から、大谷山累層・大黒谷累層・アマゴ谷累層・別山谷累層に区分され、全て整合に重なる。これらの内、恐竜化石を含む可能性の高い層準は、大黒谷累層に最下部とアマゴ谷累層の最下部である。

これらの層準では、恐竜化石と共存する化石としてこれまで経験則的にいわれてきたカメ類、魚類の鱗などの化石が確認されている。たとえば、第一次調査団によって、アマゴ谷累層の最下部から大型爬虫類の歯の化石が得られている。

また、大黒谷累層の最下部からカメ類化石をはじめとする多くの化石が確認されていた。

掘削地点は大黒谷累層の最下部層準にあたり、今回初めて導入する重機（バックホー）の搬入や掘削作業の条件を考慮して、大黒谷上流域にあたる大黒谷林道沿いの露頭を選んだ。この地点は、以前に恐竜の歯の化石が発見されたといわれている露頭である。

現地調査は予備作業・撤収作業を含めて1993年7月22日～8月4日の14日間にわたり行なった。

期間中は天候に恵まれず、化石の採取に関しては十分な成果が得られなかったが、重機の扱いに熟練した技術者やボランティアとして協力いただいた岐阜大学教育学部地学科の学生諸君の貢献は大変大きいものであった。

本調査では、目的とする地層の上部の表土を重機を用いて掘削し、林道沿いに最大幅約20メートル、最高部約20mの逆扇形の露頭及び目的とする地層約45m<sup>2</sup>を露出させて、層位掘り（層面法）で行なった。



▲ボランティア参加の岐大生

#### ③掘削調査の結果

本調査では、化石調査とともに調査地点の地質調査も行ない、採取した化石種のデータと合わせて総合的な堆積環境の推定をした。

目的とした地層からは、多くの軟体動物化石や植物化石を採取した。脊椎動物化石として、カメの板骨・大腿骨や魚類の鱗などを多数採取したが、恐竜化石は発見できなかった。

本調査の詳細な報告は、岐阜県博物館調査研究報告書vol.15に発表した。

2. 資料数一覽

(平成6年3月31日現在)

分野	館 蔵				借用	寄託	計
	実物	複製	移管・自作 その他	寄贈 (内数)			
動物	30,625	16	129	(16,614)	0	0	30,770
植物	15,419	53	190	(1,491)	0	0	15,662
岩石・鉱物	2,059	5	73	(542)	18	0	2,155
化石	1,982	35	20	(1,078)	47	28	2,112
その他	63	22	168	(21)	0	0	253
計	50,148	131	580	(19,746)	65	28	50,952

3. 資料寄贈芳名一覽 (敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名
ノウサギ	1	長瀬敦久
オオタカ	1	和田勝志
トラフズク	1	福井強志
スナヤツメ	4	国光成幸
ノスリ	1	福井強志
コウベモグラ	1	杉山正澄
真桑ウリ	3	福田種男
カワセミ	2	和良村役場
ヒミズ	1	金古弘之
オオコノハズク	1	〃
アユカケ液浸	1	〃
ハクビシン	1	赤塚隆幸

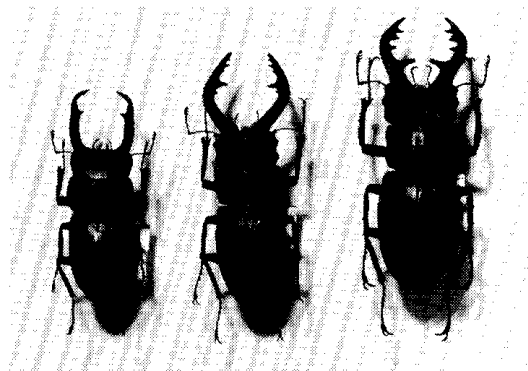
資料名	点数	芳名
モクズガニ	2	大橋亮一
メジロ	2	亀山幸子
インドクジャク	1	嶽本清一郎
アオサギ	1	〃
ミヤマクワガタ	5	小倉正治
ノコギリクワガタ	3	〃
コクワガタ	5	〃
高師小僧	1	地宗一郎
南極の岩石	1	影山達也
珪化石	4	鈴木武雄
棚橋源太郎先生顕賞日時計	1式	棚橋源太郎顕賞会
顕賞日時計解説資料	1式	小原輝子

資料名	点数	芳名
アツモリソウ	1	小林 繁
タコノアシ他	2	後藤 稔治
タマミズキ	2	武藤 素
ツタンカーメンのエンドウ	3	長谷川三代子
タチスミレ他	16	立久井昭雄
大正4・5年採集腊葉	7	森 貴久夫
県内産植物標本	1,440	二村延夫
飛騨地方産植物標本	1,200	長瀬秀雄
岐阜県産植物標本	2,000	井波一雄
奄美大島産動物植物標本等	74	〃
飯沼悠奇「平林荘」の植物	185	川瀬仙吉
県内産シダ植物標本	43	村瀬正成



▲チョウジソウ (キョウチクトウ科)

川岸や原野のやや湿った草地にはえる多年草で、5～6月淡青紫色の美しい花をつける。県内に自生の記録はあるが、現状は不明で、絶滅が危惧されている。



▲日本産クワガタムシ

左：コクワガタ  
中：ノコギリクワガタ  
右：ミヤマクワガタ

－ 人 文 部 門 －

1. 調査研究

〈考古分野〉

- 濃飛の古代遺跡及び出土品の調査研究。特に古代寺院跡について調査を行い、調査研究報告書にまとめる。
- 平成5年度特別陳列「学校宝物展」に向けての調査研究。冊子にまとめる。

〈民俗分野〉

- 平成6年度特別展「川に生きる」に向けての調査研究。図録にまとめる。

〈歴史分野〉

- 平成6年度特別陳列「ふるさとの文化財」に向けての調査研究。

〈美術・工芸分野〉

- 濃飛の染物と織物について調査研究。
- 郡上焼、特に利平焼について調査研究。
- 美濃出身の村瀬秋水生誕200年にちなみ常設展の一部に特別コーナーを設け、秋水の書画と交流のあった文人の墨跡等を展示する。

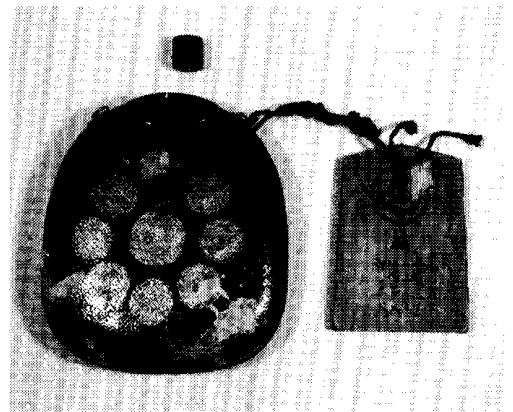
2. 資料数一覧

分 野	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	移管・自作 その他	寄 贈 (内数)			
考 古	1,993	164	52	(1,797)	517	186	2,912
歴 史	1,205	34	122	(1,193)	21	163	1,545
民 俗	2,056	2	9	(2,051)	213	30	2,305
美術・工芸	227	17	37	(173)	259	1,249	1,789
そ の 他	0	0	0	(0)	0	1	1
計	5,476	217	220	(5,214)	1,010	1,629	8,552

複製には模型・ジオラマを含む（平成6年3月31日現在）

3. 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点数	芳 名
九曜紋入火薬入(鑑札付)	1	岡 部 正 明
携 帯 用 枰	1	山 田 良 司
実業修身訓ほか書籍	18	正 村 俊 江
小学唱歌集初編ほか	3	小 木 曾 典 孝
トビ、オオトビほか	5	江 間 重 雄
筏 の 櫂	1	長 屋 理 助
船大工道具ほか	13	横 山 実
柿 渋 紙 ほ か	22	篠 田 貞



▲九曜紋入火薬入(鑑札付)

## 〔教育普及活動〕

### 1. 概要

テレビ・ラジオ・新聞への積極的な広報活動を展開するとともに、タウン誌・情報誌への資料提供に努めた。また、昨年度に引き続き案内解説の充実に努めるとともに、映画会等も導入し、ニーズの多様化に応じる体制をとった。また、マイ・ミュージアム関連の広報も新たに加わった。

### 2. 教育活動

教育活動のうちの一つ、土・日曜日の催しものには、今年も別表（P25）のような多くの参加者があった。参加者は延べ人数2,516人で、昨年を上回った。

特に、親子教室は毎回好評で、定員をオーバーすることが多く、可能な限り対応した。親子教室への参加者の特徴は、30代前半の親が子ども以上に積極的に参加し、熱中することである。

特別展講演会「織部焼の源流と国際性」では、加藤卓男氏の知名度もあり、464名の参加者があった。講堂は250名が限度であり、テレビを使用して対応したが、少々無理があった。

平成4年9月から実施されている「たのしい土曜教室」は、体験的学習を多く取り入れ、好評であった。特に「やきもの」は、定員の2倍以上の応募があった。

昨年より企画された「七草がゆを食べよう」は、昨年度の反省もあり、友の会会員の協力で非常にスムーズに運営された。友の会会員も、前日に野草づみを行い、楽しんで参加され、今後の博物館ボランティア活動に、ひとつの方向が示された。なお、来館者にふるまった七草がゆは240食であった。

館内の教育活動としては、土・日曜日の展示解説の充実に力を入れた。受付に黒板を用意し、その日の解説予定、解説時間を記入し、来館者がひと目でわかるようにした。解説内容も、仏像、刀剣、植物など新たに加えた。また、業務嘱託員の手づくり解説「ワンポイントガイド」を作成し、来館者に配布した。

### 3. 解説業務のための研修

特別展、常設展示解説のため、解説研修を次のように実施した。

- 特別展等館内研修 8回
- 常設展館内研修 14回
- 館外現地研修 2回

### 4. 広報活動

新聞等マスコミに対し、機会あるごとに担当者へ直接ファクスを使用して記事を送付し広報に努めた。また本年度、資料紹介展、特別陳列にもちらしを作成し、ポスターもすべてカラー化した。また、催しもの案内を十六銀行各支店に置いた。

外国人向けに、英文リーフレットを作成し、国際交流センター、ホテル等に配布した。

### 5. 資料の貸し出し

他館での展示会等に貸し出した主な資料

- (1)自然
  - 栃木県立博物館（4.22～6.23）  
ヌートリア剥製他 2点
  - 水戸市博物館（7.14～9.21）  
アライグマ剥製他 2点
  - 富山市科学文化センター（7.20～10.9）  
ツクバネソウ脂葉標本他 3点
  - 多治見青年会議所（7.31～8.2）  
ムササビ、タヌキ剥製他 28点
  - 名古屋市博物館（8.28～10.11）  
イノシシ剥製、ギンバイソウ脂葉標本他 29点
  - 郡上八幡総合文化センター（9.1～12.1）  
スライド（オオツノジカ） 1点
  - 美濃市役所林務課（9.8～9.25）  
メジロ剥製他 25点
  - 斐太高等学校（9.15～9.30）  
恐竜の歯（レプリカ） 1点
  - 美濃加茂ロータリークラブ（10.20～11.20）  
スライド（ライチョウ） 1点
  - 岐阜北税務署（11.12～11.17）  
イグアノドン足跡化石他 15点
- (2)人文
  - 奈良県立美術館（9.5～10.13）  
森川朴園作「猩々」 1点
  - 愛知県清州貝殻山貝塚資料館（9.26～12.3）

円満寺山古墳出土「天王日唐草文帯二神二獣鏡」1点

## 6. 博物館実習生指導

上越教育大学、お茶の水女子大学、武蔵野美術大学、駒澤大学、京都精華大学、信州大学、日本福祉大学、千葉大学より各1名、計8名を指導した。

## 7. 図書資料

図書資料室と郷土学習室では約22,000冊の本を開架式で来館者の利用に供している。購入による収集のほか、他館との交換、寄贈等により年々資料は充実してきている。

本年度、棚橋源太郎に関する資料の寄贈を受けた。この資料に関しての大学関係者の問い合

わせ、調査のための来館が多数あった。

## 8. 刊行物

本年度刊行した出版物等は下記の通りである。

## 9. 視聴覚関係

郷土学習室では常時ビデオを上映した。また、一部の作品を、地歌舞伎作品に入れ換えた。特別展では関連ビデオを上映した。日本自然保護協会、国際交流協会から計3本のビデオの寄贈を受けた。

毎日曜日、映画(16mm)を上映した。特別展期間中は、特別展に関連する映画を上映し、それ以外の期間は、小学生向きのアニメーションを中心に番組を編成した。好評で、一回平均30~40人の入場者があった。

## 平成5年度 刊行物一覧

名 称	発行年月日	版・頁	部数	備 考	
岐阜県博物館だより 第50号	5.4.1	B 5 4頁	2,500	友の会増刷 (各500部)	
〃 第51号	5.7.1	B 5 4頁	〃		
〃 第52号	5.10.1	B 5 4頁	〃		
岐阜県博物館報 第16号	5.4.1	B 5 32頁	750		
岐阜県博物館英文リーフレット	5.11.1	A 4 8頁	2,000		
岐阜県博物館調査研究報告書 第15号	6.3.31	B 5 44頁	700		
平成5年度岐阜県博物館催し物案内	5.4.1	B 4 裏表	30,000		
〃	〃	B 3 表	4,200		
特別展図録				友の会増刷 (1,500)	
土と炎の芸術	5.4.27	B 5 71頁	600		
失われゆく植物	5.10.6	B 5 63頁	600	(1,000)	
特別展等ポスター				友の会発行	
土と炎の芸術	ポスター	5.4.1	B 2		1,500
	ちらし		B 5		25,000
失われゆく植物	ポスター	5.9.10	B 2		1,500
	ちらし		B 5		25,000
川と自然	ポスター	5.6.21	B 3		1,000
	ちらし		B 5		20,000
学校宝物展	ポスター	5.12.27	B 3		1,000
	ちらし		B 5		20,000
マイ・ミュージアム展示コレクション募集ポスター		6.1.17	A全		1,500
資料紹介展・特別陳列パンフレット					
川と自然	5.7.18	B 5 20頁	1,000		
学校宝物展	6.2.1	B 5 48頁	1,200		



平成5年度 催しもの一覧

事業名	期日	対象	定員	内 容	参加人員
特別展講演会	6/20	一般		「織部焼の源流と国際性」 美濃陶芸協会名誉会長 加藤卓男氏	464
”	11/14	”		「絶滅の危機にある植物」 東京大学助教授 矢原徹一氏	177
文化講演会	11/3	”		「漫画と文化」 漫画家 福地泡介氏	152
県博日曜講座	7/25	小学生以上一般		水辺の植物	35
”	8/1	”		川とけものたち	21
”	8/8	一般		飛騨・木曾の木材といかだ流し	19
”	9/5	小学生以上一般		川のはたらき	26
”	10/24	一般		「今、資源植物が危ない」 岐阜薬科大学助教授 田中俊弘氏	110
”	1/23	”		中山道と美濃路	80
自然観察会	4/29	小学生以上一般	50人	観察のこみちの樹木を調べよう (グリーンアドベンチャー事業)	27
”	5/23	親子	37人	ふるさと化石を観察しよう(荘川村)	46
”	8/22	小学生以上一般	30人	川原の昆虫を観察しよう	38
ふるさと自然探検隊	8/7 ～8	親子	50人	高原の自然をさぐる(中津川市・根の上高原) 宿泊: 恵那山荘	52
陶芸教室	5/16	一般	30人	茶碗 美濃陶芸協会副会長 小林文一氏	30
”	6/6	”	30人	花瓶 美濃陶芸協会副会長 小林文一氏	30
親子教室	5/5	親子	40人	紙でいろいろなものを作ろう 造形作家 水野政雄氏	41
”	8/15	”	40人	火おこし器をつくろう	69
”	8/29	”	50人	竹細工(笛・竹とんぼをつくろう) 竹細工師 石原文雄氏	62
”	10/31	”	40人	紙で恐竜をつくろう	61
”	12/12	”	50人	凧をつくってあげよう 竹細工師 石原文雄氏	51
”	12/19	”	50人	わら細工(しめなわをつくろう) わら細工師 大野仁久氏	70
たのしい土曜教室	4/10	小中学生・親	50人	チョウを観察しよう	32
”	5/8	”	50人	やきもの(人形をつくろう)	66
”	6/12	”	50人	やきもの(日用品をつくろう-施釉-)	77
”	7/10	”		ふるさとの祭りの映画をみよう	96
”	9/11	”		博物館を探検しよう	107
”	10/9	”		中山道の映画をみよう	29
”	11/13	”		失われゆく植物を知ろう	26
”	12/11	”	40人	版画で年賀状をつくろう	61
”	1/8	”	50人	野鳥を観察しよう	26
”	2/12	”	100人	博物館の資料をかこう	48
”	3/12	”		春をさがそう	32
ふるさと探訪	11/7	親子・一般	37人	街道を歩こう(美濃路)	47
特別行事	1/9	来館者	200人	七草がゆを食べよう	240
民俗芸能	5/3	”		関孫六太鼓	約800

## 〔マイ・ミュージアム棟建設事業〕

数年来の構想が実現の運びとなり、平成5年度から建設及び関連事業が進行することになった。また、平成6年3月には、国のマルチメディア情報センター整備補助金の対象に決まった。予算は平成5年度予算として計上（6年度へ繰越明許）され、また工事とともにマルチメディア映像ソフト「ハイパーハイビジョン風土記・岐阜」の制作も開始した。

### 1. マイ・ミュージアム棟の建設

#### (1)施設の概要

鉄筋コンクリート構造、地上3階、地下1階、エレベーター設置

- 建築物延面積 1,632.9㎡
- 建設工事費 約1,488百万円
- 工 事 大日本土木㈱・新東建設工業  
㈱共同他
- 設 計 大建建設
- 完成予定 平成7年3月
- 各階の概要

地下1階 エントランスホール、機械室

地上1階 マイミュージアムホール(仮称)

県民の収集・所蔵品の展示を行う。

地上2階 ハイビジョンホール(仮称)

「ハイパーハイビジョン風土記・岐阜」のハイビジョンマルチメディア情報等を150インチスクリーンで放映。客席は約130席。

地上3階 レファレンスホール(仮称)

「ハイパーハイビジョン風土記・岐阜」等をマルチメディア情報として個別に検索する学習室。他にハイビジョン静止画ソフト制作・編集室等を設置。

#### (2)建設工事の進捗状況

平成5年4月～6月 実施設計上の検討

〃 6年1月20日 起工式

知事、副議長、教育委員長等多数列席して博物館職員駐車場で式典挙行。

〃 6年2月～ 鹿児島庭園移設、研究作業棟取壊し等基礎工事が進行している。

### 2. ハイビジョン「ハイパーハイビジョン風土記・岐阜」のソフト制作

#### (1)ソフトの概要

岐阜県全域を美濃路、中山道、郡上・飛騨街

道の4街道を基軸に、人文、自然の事象を現代の風土記として4年計画で制作する。映像はハイビジョンによるマルチメディアとし、双方向性をもつ。

#### (2)制作の進捗状況

平成5・6年度に「美濃路編」制作

制作委託先 ㈱NHKエンタープライズ

平成5年4月 館組織に担当設置。資料収集開始。

〃 11月 ㈱ハイビジョン普及支援センターとの共同企画によるシュミレーションソフト完成公開、知事観賞。

平成6年3月 本ソフト制作本格化

製作費 5年度 4,000万円

6年度 6,000万円

### 3. マイ・ミュージアムホールの運営計画

#### (1)計画の概要

県民(在住、在勤、ゆかりの人)のコレクションを募集し、期間を限って展示するなどの基本的運営要領を作成して公表、募集を始めている。

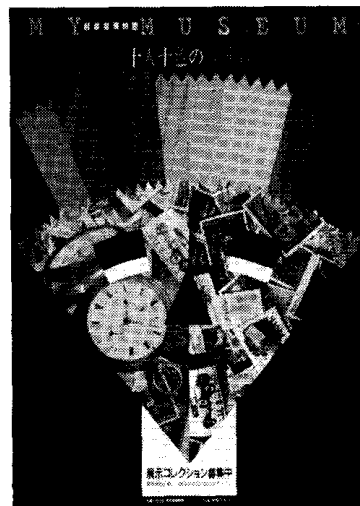
#### (2)計画の進捗状況

平成5年12月 県博物館協議会において運営要領を協議。

平成6年1月 報道機関に発表

〃 3月 展示希望者募集開始(5月末日まで、以後随時)

〃 3月 募集ポスター制作、配布。多様なコレクションの展示応募がある。



◀募集ポスター

## 〔図書資料寄贈者芳名一覧〕

(平成5年4月1日～  
平成6年3月31日)

### 〔博物館関係〕

国立歴史民俗博物館  
東京国立博物館  
国立科学博物館  
衆議院憲政記念館  
東京国立近代美術館  
国立科学博物館附属自然教育園  
京都国立博物館  
国立民族学博物館  
北海道開拓の村  
北海道開拓記念館  
札幌芸術の森  
北海道立北方民族博物館  
小樽市博物館  
小樽市青少年科学技術館  
釧路市立博物館  
苫小牧市博物館  
苫小牧市科学センター  
市立函館博物館  
旭川市博物館  
根室市博物館開設準備室  
斜里町立知床博物館  
穂別町立博物館  
浦幌町郷土博物館  
利尻町立博物館  
青森県立郷土館  
八戸市博物館  
岩手県立博物館  
岩手県農業博物館  
仙台市博物館  
仙台市科学館  
斎藤報恩会自然史博物館  
仙台市歴史民俗資料館  
塩竈神社博物館  
東北歴史資料館  
秋田県立博物館  
山形県立博物館  
山形県立うきたむ風土記の丘  
致道博物館  
福島県立博物館  
会津民俗館  
茨城県立歴史館  
水戸市立博物館  
土浦市立博物館  
日立市郷土博物館  
栃木県立博物館

小山市立博物館  
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館  
栃木県立なす風土記の丘資料館  
群馬県立歴史博物館  
群馬県立近代美術館  
等懸野岩宿文化資料館  
浦和市立郷土博物館  
埼玉県立博物館  
埼玉県立民俗文化センター  
埼玉県さきたま資料館  
戸田市立郷土博物館  
埼玉県立歴史資料館  
埼玉県立自然史博物館  
千葉県立中央博物館  
千葉県立郷土博物館  
千葉県立加曽利貝塚博物館  
我孫子市鳥の博物館  
市立市川考古博物館  
市川自然博物館  
君津市立久留里城址資料館  
千葉県立大根博物館  
千葉県立上総博物館  
千葉県立安房博物館  
船橋市郷土資料館  
千葉県立総南博物館  
千葉県立房総風土記の丘  
千葉県立房総のむら  
足立区立郷土博物館  
板橋区立教育科学館  
板橋区立郷土資料館  
太田区立郷土博物館  
紙の博物館  
船の科学館  
渋谷区立松濤美術館  
たばこと塩の博物館  
東京都江戸東京博物館  
世田谷区立郷土資料館  
家具の博物館  
通信総合博物館  
博物館明治村東京事務所  
豊島区立郷土資料館  
三井文庫  
サントリー美術館  
港区立港郷土資料館  
江戸東京たてもの園  
八王子市郷土資料館  
福生市郷土資料館  
府中市郷土の森博物館  
JRA競馬博物館

町田市立博物館  
町田市立国際版画美術館  
神奈川県立博物館  
神奈川県立金沢文庫  
根岸競馬記念公苑(馬の博物館)  
横浜美術館  
横浜マリタイムミュージアム  
川崎市青少年科学館  
川崎市市民ミュージアム  
平塚市博物館  
茅ヶ崎市文化資料館  
秦野市立桜土手古墳展示館  
横須賀市自然人文博物館  
山梨県立美術館  
山梨県立考古博物館  
長野市立博物館  
松本市立博物館  
飯田市美術博物館  
大町山岳博物館  
信濃町立野尻湖博物館  
信州新町化石博物館  
長岡市立科学博物館  
富山市郷土博物館  
富山市科学文化センター  
富山県立山博物館  
魚津水族館  
石川県立歴史博物館  
石川県輪島漆芸美術館  
小松市立博物館  
松任市立博物館  
石川県白山自然保護センター  
福井県立博物館  
福井市立郷土歴史博物館  
福井市自然史博物館  
福井県立若狭歴史民俗資料館  
福井県立自然保護センター  
静岡県立美術館  
静岡市立登呂博物館  
上原伝教美術館  
下田海中水族館  
沼津市歴史民俗資料館  
沼津市明治史料館  
富士市立博物館  
三島市郷土館  
焼津市歴史民俗資料館  
浜松市博物館  
愛知県芸術文化センター  
徳川美術館  
熱田神宮宝物館

名古屋市博物館  
名古屋市科学館  
名古屋市見晴台考古資料館  
てんきの科学館  
一宮市博物館  
日本モンキーセンター  
博物館明治村  
リトルワールド  
愛知県陶磁資料館  
瀬戸市歴史民俗資料館  
豊田市郷土資料館  
豊橋市美術博物館  
豊橋市自然史博物館  
豊橋市地下資源館  
豊橋市二川宿本陣資料館  
安城市歴史博物館  
岡崎市郷土館  
おかざき世界こども美術博物館  
知立市歴史民俗資料館  
半田市立博物館  
トヨタ博物館  
三好町立歴史民俗資料館  
鳳来寺山自然科学博物館  
清州貝殻山貝塚資料館  
四日市市立博物館  
桑名市博物館  
海の博物館  
真珠博物館  
鳥羽水族館  
斎宮歴史博物館  
藤原岳自然科学館  
日本カモンカセンター  
大津市歴史博物館  
滋賀県立琵琶湖文化館  
琵琶湖博物館開設準備室  
彦根城博物館  
長浜市立長浜城歴史博物館  
滋賀県立安土城考古博物館  
滋賀県陶芸の森  
栗東歴史民俗資料館  
京都府立総合資料館  
京都府京都文化博物館  
博物館さかの人形の家  
中信美術奨励基金  
京都府立丹後郷土資料館  
大阪市立博物館  
大阪市立科学館  
大阪市立東洋陶磁器美術館  
大阪人権歴史資料館  
大阪市立自然史博物館  
吹田市立博物館  
岸和田市立郷土資料館

堺市博物館  
大阪府立弥生文化博物館  
柏原市立歴史資料館  
神戸市立博物館  
神戸海洋博物館  
兵庫県立歴史博物館  
姫路文学館  
辰馬考古資料館  
明石市立文化博物館  
尼崎市立文化財収蔵庫  
伊丹市立博物館  
兵庫県立人と自然の博物館  
奈良県立美術館  
大和文華館  
橿原市千塚資料館  
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館  
香芝市二上山博物館  
奈良県立民俗博物館  
和歌山市立博物館  
和歌山県立自然博物館  
鳥取県立博物館  
島根県立博物館  
奥出雲多根自然博物館  
岡山県立博物館  
岡山県立美術館  
津山洋学資料館  
倉敷市立自然史博物館  
広島県立歴史博物館  
広島県立歴史民俗資料館  
安佐動物公園  
日本はきもの博物館  
宮島町立宮島歴史民俗資料館  
新市町立歴史民俗資料館  
山口県立山口博物館  
美祢市歴史民俗資料館  
秋吉台科学博物館  
徳島県立博物館  
徳島市立徳島城博物館  
高松市歴史資料館  
愛媛県立博物館  
高知市立自由民権記念館  
高知県立歴史民俗資料館  
佐川町立佐川地質館  
北九州市立歴史博物館  
北九州市立考古博物館  
北九州市立自然史博物館  
福岡市博物館  
九州歴史資料館  
佐賀県立博物館／美術館  
長崎県立美術館  
長崎市立博物館  
熊本市立熊本博物館

熊本県立美術館  
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館  
宮崎県総合博物館  
鹿児島県立博物館  
鹿児島市立美術館  
鹿児島市歴史資料センター黎明館  
尚古集成館  
岐阜県歴史資料館  
岐阜県美術館  
岐阜県立図書館  
岐阜県陶磁資料館  
岐阜市歴史博物館  
岐阜市科学館  
各務原市歴史民俗資料館  
内藤記念くすり博物館  
大垣市歴史民俗資料館  
海津町歴史民俗資料館  
揖斐川町歴史民俗資料館  
土岐市美濃陶磁歴史館  
瑞浪市化石博物館  
瑞浪陶磁資料館  
歴史民俗資料館高山郷土館  
郷土文化伝習館・埋文調査所

#### 〔博物館協会〕

全国科学博物館協議会  
日本博物館協会  
神奈川県博物館協会  
全日本博物館学会  
静岡県博物館協会  
愛知県博物館協会  
岐阜県博物館協会

#### 〔役所関係〕

文化庁文化財保護部  
横浜防衛施設局建設企画課  
建設省庄内川工事事務所  
名古屋植物防疫所  
岐阜県総務部広報課  
岐阜県企画部消費生活課  
岐阜県企画部統計課  
岐阜県企画部地域振興課  
岐阜県商工労働部商工課  
岐阜県林政部林政課  
岐阜県自治研修所  
武儀県事務所  
岐阜県保健環境研究所  
岐阜県工業技術センター  
岐阜県工業試験場  
岐阜県農業総合研究センター  
岐阜県水産試験場

岐阜国際交流センター  
岐阜県広報センター  
岐阜コンベンションビューロー  
川島町役場  
高富町役場  
平田町役場  
墨俣町役場  
藤橋村役場  
関市役所  
八幡町役場  
美並村役場  
可児市役所  
土岐市役所  
萩原町役場  
古川町役場  
岐阜市文化センター  
各務原市民会館  
穂積町民センター  
大垣市立図書館  
美濃市文化会館  
美濃市中央公民館  
美濃加茂市文化会館  
多治見市文化会館

#### 〔教育委員会関係〕

北海道教育委員会  
東京都教育庁生涯学習部  
板橋区教育委員会  
世田谷区教育委員会社会教育部  
神奈川県教育庁文化財保護課  
相模原市教育委員会社会教育課  
山北町教育委員会  
新居町教育委員会  
豊田市教育委員会史料叢書編纂会  
春日井市教育委員会文化振興課  
津市教育委員会  
四日市市教育委員会文化課  
亀山市教育委員会社会教育課  
大山田村教育委員会  
滋賀県教育委員会  
山東町教育委員会  
能登川町教育委員会社会教育課  
豊中市教育委員会  
泉佐野市教育委員会  
姫路市教育委員会文化課  
明石市教育委員会  
橿原市教育委員会社会教育課  
東郷町教育委員会  
福岡県教育委員会  
鞍手町教育委員会  
大分県教育委員会文化課  
岐阜県教育委員会

岐阜県教育センター  
岐阜県情報処理教育センター  
グリーンテクノセンター  
岐阜メモリアルセンター  
岐阜市教育委員会  
各務原市教育委員会  
穂積町教育委員会  
大垣市教育委員会  
藤橋村教育委員会  
関市教育委員会  
美濃市教育委員会  
美濃加茂市教育委員会  
七宗町教育委員会  
恵那市教育委員会  
岩村町教育委員会  
高山市教育委員会  
久々野町教育委員会  
岐阜市少年自然の家  
関ヶ原青少年自然の家  
関市少年自然の家  
土岐少年自然の家  
御獄少年自然の家

#### 〔学校関係〕

秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館  
山形大学附属博物館  
筑波大学歴史人類学研究所  
筑波大学地球科学系  
川村学園女子大学図書館  
国学院大学博物館学研究室  
国学院大学考古学資料館  
駒沢大学文学部自然科学教室  
東京農業大学農業資料室  
日本大学文理学部応用地学教室  
明治薬科大学明薬資料館  
明治大学考古学博物館  
明治大学商品陳列館  
明治大学学芸員養成課程  
法政大学文学部考古学研究室  
学習院大学  
東京農工大学附属繊維博物館  
武蔵野美術大学  
実践女子大学博物館学研究室  
神奈川大学日本常民文化研究所  
日本大学農獣医学部資料館  
帝京大学山梨文化財研究所  
金沢大学理学部附属植物園  
静岡大学理学部地球科学教室  
東海大学海洋科学博物館  
名古屋大学文学部美学美術史研究室  
名古屋大学古川総合研究資料館  
名古屋大学工学部土木工学科

市邨学園大学人文科学研究会  
市邨学園短期大学地域社会研究会  
名古屋経済大学自然科学研究会  
愛知大学総合郷土研究所  
愛知大文学會  
名古屋造形芸術大学附属図書館  
同志社大学博物館学芸員課程  
立命館大学文学部国際平和ミュージアム  
仏教大学総合研究所  
京都府立大学昆虫学教室  
関西大学考古学等資料室  
大阪大学文学部考古学研究室  
天理大学附属天理参考館  
島根大学山陰地域研究総合センター  
九州産業大学芸術学会  
別府大学附属博物館  
多治見市池田小学校  
岐阜第一女子高等学校  
羽島高等学校  
池田高等学校  
不破高等学校  
郡上高等学校  
関高等学校  
関商工高等学校  
加茂高等学校  
可児工業高等学校  
大垣日本大学高等学校  
岐阜大学教育学部  
岐阜薬科大学  
岐阜市立女子短期大学  
岐阜経済大学地域研究所  
聖徳学園岐阜教育大学  
東海女子大学  
聖徳学園女子短期大学  
中京短期大学  
中部女子短期大学  
岐阜県高等学校地理教育研究会  
岐阜県高等学校生物教育研究会  
岐阜県高等学校地学教育研究会  
岐阜県高等学校理科助手研究会  
岐阜県高等学校教育研究会  
美濃地区高等学校国語研究会  
岐阜県小中学校長会  
岐阜県高等学校長協会  
岐阜県校長会館  
岐阜県PTA連合会

#### 〔研究機関・出版社・その他〕

地質調査所  
東京国立文化財研究所  
社会教育研修所  
宮内庁書陵部

国立劇場養成部資料課  
宮内庁正倉院事務所  
奈良国立文化財研究所  
北網圏北見文化センター  
いわき市教育文化事業団  
あきた結び文化研究会  
福島市児童文化センター  
千葉県文化財センター  
東レ科学振興会  
足立区伊興遺跡調査会  
西原遺跡調査会  
株式会社ココロ  
日本美術刀剣保存協会  
山武ハネウエル  
藤田トイミュージアム財団  
下中記念財団  
東京貝類同好会  
国画会事務所  
ギャラリーS V A X  
ポーラ文化研究所(文化振興財団)  
全国過疎地域活性化連盟  
青少年交友協会  
日本ナショナルトラスト  
三貴タルムード  
地学団体研究会  
古筆学研究所  
平和祈念事業特別基金  
丹青総合研究所・文化空間研究部  
テレコム高度利用推進センター  
日本宇宙少年団  
乃村工藝社文化環境研究所  
八丈島八重根遺跡調査会  
大島泉津道路遺跡調査団  
板橋市場内遺跡調査会  
日野市落川遺跡調査会  
都営川越道住宅遺跡調査会  
武蔵国分寺関連遺跡調査会  
落川・一の宮遺跡調査会  
横浜市ふるさと歴史財団  
玉川文化財研究所  
横浜市青少年科学普及協会  
神奈川自然保全研究会  
川崎市立日本民家園  
平岡環境科学研究所  
神奈川県立自然保護センター  
富山市ファミリーパーク公社  
愛知県文化振興事業団  
中部建設協会  
河川部河川計画課  
中部電力株式会社  
美術文化史研究会  
水彩連盟 愛知支部

日本イヌワシ研究会  
木地屋とろくろ研究所  
京都服飾文化研究財団  
古代学協会  
醍醐寺文化財研究所  
国際日本文化研究センター  
国民融合をめざす部落問題全国会議  
濱田耕作先生著作集刊行委員会  
道修町文書保存会  
日本生命財団  
クボタ  
極楽寺宗教文化研究所  
淡神文化財協会  
のじぎく文化財保護研究財団  
黒川古文化研究所  
元興寺文化財研究所  
岡山県自然保護センター  
草戸千軒町遺跡調査研究所  
厳島神社社務所  
スペースキャンプクラブ  
未来の森ミュージアム  
種子島開発総合センター  
青森県埋蔵文化財調査センター  
千葉県文化財センター  
東京都埋蔵文化財センター  
神奈川県立埋蔵文化財センター  
長野県埋蔵文化財センター  
富山県埋蔵文化財調査事務所  
富山県埋蔵文化財センター  
静岡県埋蔵文化財調査研究所  
愛知県埋蔵文化財センター  
瀬戸市埋蔵文化財センター  
豊橋市埋蔵文化財調査事務所  
滋賀県埋蔵文化財センター  
桜井市立埋蔵文化財センター  
松山市埋蔵文化財センター  
福岡市埋蔵文化財センター  
鹿児島県立埋蔵文化財センター  
岐阜県文化財保護センター  
各務原市埋蔵文化財調査センター  
多治見市文化財保護センター  
美並村文化財保護審議会  
岐阜県博物館友の会  
岐阜教育会  
岐阜県郷土資料研究協議会  
岐阜県歴史資料保存協会  
岐阜県文化財保護協会  
岐阜県常民文化研究会  
岐阜県植物研究会  
岐阜県昆虫同好会  
岐阜県哺乳動物調査研究会  
岐阜市文芸祭実行委員会

中山道加納宿文化保存会  
南長森郷土史会  
悠斎研究会  
養老町文化財保護協会  
岐阜県文化財保護協会大野支部  
東海地理研究会  
美濃民俗文化の会  
壺山顕彰会岐阜県支部  
岐阜地区市民生活共同組合  
創価学会岐阜県広報部  
全国進学情報センター岐阜支局  
飛驒考古学会  
芸術出版社  
アスク講談社  
岩波書店  
農村文化社  
日本美術刀剣新聞社  
東京美術  
続群書類従完成会  
世界の動き社  
第一法規出版株式会社  
ぴあ株式会社名古屋支局  
名古屋鉄道株式会社広報宣伝部  
日本新評論社出版部  
啓林館  
日本文教出版株式会社  
北白川書房  
サンメッセ企画出版事業部  
書道心画院  
CHUAN  
ふらぎ事業部  
Oreille事業部  
西美濃わが街社  
美濃揖斐谷通信編集室  
郡上史談会  
海外學人月刊社  
中華民国国立中央図書館  
今日郵政月刊社  
自由中国紀事報社  
光華画報雜誌社  
中華民国僑務委員会

#### 〔個人〕

花ヶ前盛明 篠田幸次  
和田吉弘 安藤日出武  
清 重信 市原信治  
水野政雄 宮崎 惇  
小林信子 中島 恬  
千藤克彦

## 〔利用状況〕

### 1. 入館者数

本年度は、入館者総数63,444人、前年に比べて約23.4%の減少となった。これは、天候不順、特別展開催数の減などによる影響が考えられる。

また、開館日数は306日であり、1日平均の入館者数は207人であった。

月別の入館者数は右表のとおりである。1日の入館者が最も多い日は、皇太子御成婚を記念して入館料の無料開放を行った6月9日で1,409人を数えた。

団体入館者数をみると、団体4,816人で入館者総数の約7.6%にのぼり、月別では、7月が最も多く、団体入館者全体の約24.9%を占めている。

月	小中生	高大生	一般	計	開館日数	一日平均
4	1,403	551	2,283	4,237	26	163
5	2,440	452	5,804	8,696	26	334
6	1,063	299	5,293	6,655	26	256
7	1,117	912	2,175	4,204	27	156
8	2,418	460	3,851	6,729	26	259
9	1,420	151	3,062	4,633	26	178
10	7,380	136	3,663	11,179	27	414
11	2,144	402	3,299	5,845	25	234
12	338	123	825	1,286	23	56
1	525	86	1,357	1,968	23	86
2	747	69	1,765	2,581	24	108
3	1,446	752	3,233	5,431	27	201
計	22,441	4,393	36,601	63,444	306	207

特別展期間中の入館者数は、右表のとおりである。入館者総数は33,003人で、これは入館者総数の約52.0%にあたる。また、1日平均327人であった。

特別展名	期間	小中生	高大生	一般	計
土と炎の芸術	4.27～6.27	3,996	1,136	11,567	16,699
失われゆく植物	10.6～11.28	9,192	516	6,596	16,304
計		13,188	1,652	18,163	33,003

### 2. 施設利用

今年度の講堂及び研修室の利用者は次のとおりであった。

〈講堂〉

- 5.6.15 関蝶々会
- 8.19 岐阜県中学校理科研究部会
- 8.24 美濃教育事務所初任者教員研修会

〈研修室〉

- 5.5.22 岐阜県哺乳動物研究会
- 6.26 日本美術刀剣保存協会 岐阜県支部
- 7.11 岐阜野尻湖友の会
- 7.29～30 関市教育委員会（少年少女科学教室）
- 9.7 岐阜県高等学校長協会
- 9.25 日本美術刀剣保存協会 岐阜県支部
- 11.4 岐阜県教育委員会 学校教育課長会
- 11.23 美濃市教育研究所
- 6.3.1 岐阜市中学校教頭会

## 〔博物館関係団体〕

### 1. 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。公開講座（年4回）、機関誌（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うように努力した。

平成6年3月現在、会員館園は126、個人会員は23名、名誉会長以下主な役員は次のとおり。

名誉会長－梶原拓、会長－浅野勇、副会長－日下部尚・青木允夫・横山勢津男、理事長－松本五三、事務局は岐阜県博物館内にある。

### 2. 岐阜県博物館友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を図ること」をめざして発足した友の会は本年度創立11周年を迎えた。

一般会員516名、後援会員24名で会員数としては過去最大となり、友の会への期待の大きさを示す数字となった。会員の年齢構成は、50代、60代が過半数を占め、生涯教育が叫ばれる今日、中高齢者の学習・活動の場を提供するという所にも友の会の使命を感じさせる。

主催事業のうち、探訪の旅は日帰り3回、一泊二日1回の計4回、他館見学は1回実施した。いずれも定員を超える参加者が集まり盛況であった。今後も、会員の期待にそえるよう内容の充実に努めたい。

恒例の行事となった文化講演会は、地元関市出身の漫画家福地泡介氏を講師に迎えて実施した。「漫画と文化」と題した講演を県博物館の講堂が埋まるほどの参加者が聴講した。

こうした友の会の活動を支えるものは、友の会会員の協力と後援会員のお力添えによるところが大きい。とりわけ、財政的な面はもちろんのこと、ボランティア活動による友の会会員の貢献が、本年度いろいろな面でみうけられたことが大きな進歩であった。特別行事「七草がゆを食べよう」では、七草の採集から当日の運営にいたるまで会員ボランティアの方々が活躍された。来年度は、博物館の活動を支える意味で



▲高野山奥の院にて

のボランティア活動の推進を一層進めていく必要がある。

友の会のもう一つの大きな側面である博物館への支援活動は、共催事業への参加支援、資料作成等々であるが、昨年度に引き続いて事務機器を寄贈することなどをした。今後の課題としては、財政基盤の一層の充実をはかるとともに、探訪の旅などの事業の内容の充実、人気の高い図録等の増刷、博物館ミュージアムショップの検討などがあげられよう。

#### 〈会議〉

- 役員会・理事会 4.29 ●総会 4.29
- 役員会 1.19 ●正副会長会議 3.18

#### 〈研修事業〉

- 探訪の旅 ①根尾・谷汲方面 5.30 46名
- ②安土・近江八幡方面 7.11 86名
- ③高野山方面 11.14～15 77名
- ④豊橋方面 3.6 95名
- 他館見学 天理大学参考館ほか 9.5 81名
- 文化講演会「漫画と文化」 11.3 152名

#### 〈友の会報発行〉

- 第35号 4.1 500部 B5 6頁
- 第36号 7.1 500部 B5 6頁
- 第37号 10.1 500部 B5 6頁
- 第38号 1.1 500部 B5 6頁

#### 〈資料等作成頒布〉

- 特別展図録 「土と炎の芸術」 1,500部
- 「失われゆく植物」 1,000部

- 「総合案内」等の頒布

#### 〈その他〉

- たのしい土曜教室等共催事業
- 会員助成（入館料補助）・県博物館への寄贈



## IV 利用案内

- 開館時間 4月1日▶10月31日 9時▶16時30分  
11月1日▶3月31日 9時30分▶16時30分  
(入館は16時まで)

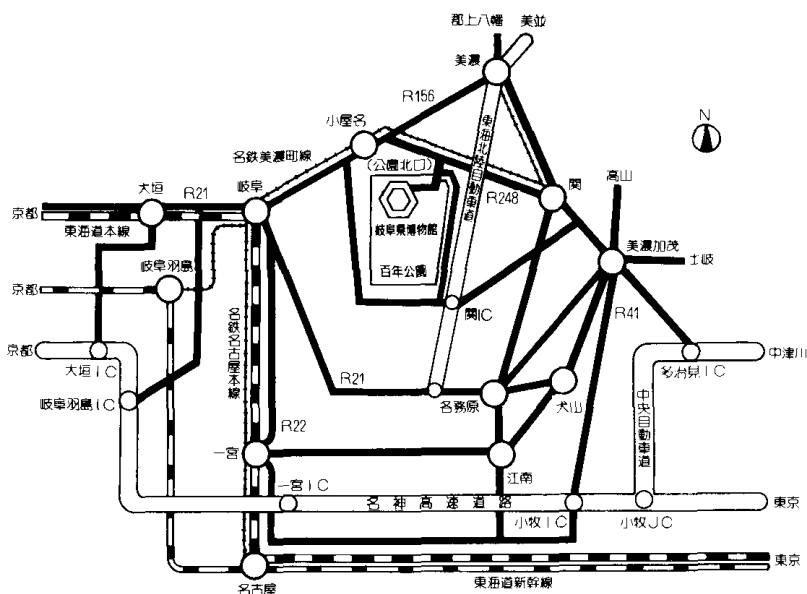
- 入館料 ( )は特別展開催中の入館料

区分	個人	団体(20人以上)
一般	210円(500円)	150円(400円)
高校・大学生	100円(300円)	50円(200円)
小・中学生	無料(150円)	無料(100円)

※団体で利用していただく場合には、下見においでください。

解説資料・利用案内等をさしあげ、館内をご案内します。

- 休館日 月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)  
年末年始(12月27日▶翌年1月4日)
- 駐車場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場をご利用ください。  
駐車料金……普通(軽)自動車 300円、バス 800円
- 交通 名鉄美濃町線 小屋名下車 徒歩約15分  
岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分  
自家用車のご利用の場合は百年公園北口からお入りください。



〒501-32 岐阜県関市小屋名小河1989 ☎(0575)28-3111(代表) FAX(0575)28-3110

岐阜県博物館報 第17号

平成6年(1994) 4月1日発行

編集発行

岐阜県博物館

印刷

協同印刷株式会社